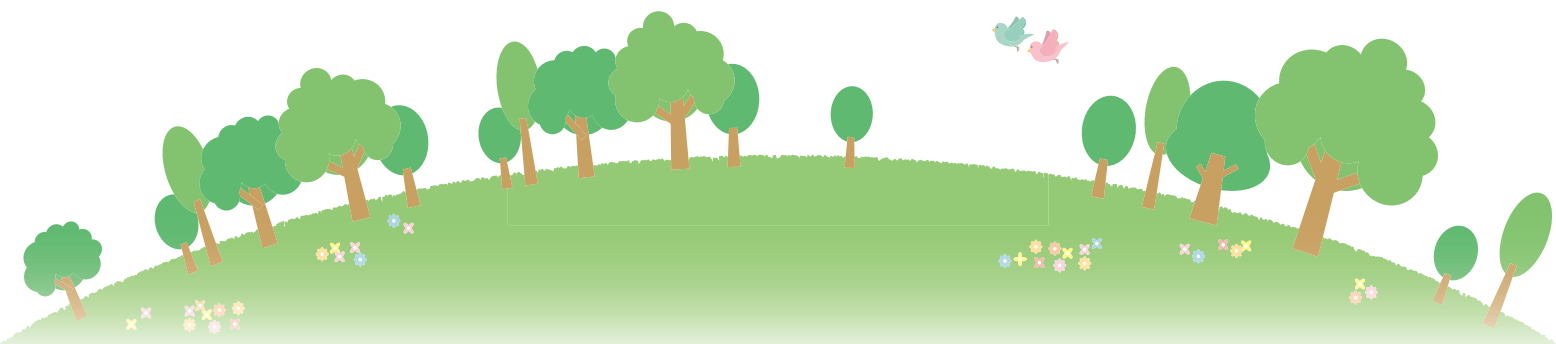


# いじめをなくそう 高校生サミット記録集

平成26年度 “いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動

平成27年2月

山形県青少年育成県民会議  
山 形 県



## “いじめ・非行をなくそう” やまがた県民運動

いじめ・非行は、将来を担う青少年の健全な育成を妨げるものであり、その防止・根絶に向けては、学校のみならず、地域・家庭が連携して「いじめ・非行を許さない・見逃さない」ことを徹底していく必要があります。

このため本県では、平成 25 年度から県、教育機関、警察及び青少年健全育成団体などが一体となり、“いじめ・非行をなくそう” やまがた県民運動を展開することにより、子ども達が率先して運動に取り組むとともに、その取り組みを大人も共有・共感し、具体的な行動につなげていくことを目的として、この運動に取り組んでいます。

## 山形県青少年育成県民会議

山形県青少年育成県民会議は、青少年問題のもつ重要性に鑑み、広く県民の総意を結集し、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的として、昭和 41 年 12 月に結成されました。

現在は、各青少年育成市町村民会議等と連携して“いじめ・非行をなくそう” やまがた県民運動の取り組みをはじめ、「大人が変われば子どもも変わる」県民運動の推進、青少年健全育成県民大会や青少年のための環境づくり懇談会、山形県少年の主張大会の開催、“明るいやまがた夏の安全県民運動”、「家庭の日」の普及啓発等々、青少年健全育成県民運動や広報啓発活動に取り組んでいます。

# はじめに

## ——高校生の可能性がここに——

平成26年11月9日、山形県青少年健全育成県民大会（南陽市民会館）において、初の取組みとして「いじめをなくそう高校生サミット」を開催したことにより、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動は、実施2年目で一つのエポックを刻むことになりました。

この高校生サミットと、県内各高校で実施されているいじめ防止の取組みを集約した記録集を編み、県民のみなさまにお届けいたします。

今回、置賜地区の高校生の実践・協力・参加を得て開催された、このパネルディスカッションの場に私は身を置きながら、いじめの問題に関して高校生が発信する姿に潮目を感じていました。そして「互いに認め合う人間関係づくり」というテーマこそ、高校生の総意であり、めざすものであると確信いたしました。総意と申し上げた根拠については、本誌後段の各校「いじめ防止スローガン」を確認いただければ明らかかと思えます。

さて、青少年を取り巻く環境や時代の空気の変化には驚くものがあります。デジタル情報化、グローバル化、格差社会、人口減少社会、不寛容など数々のラベルが貼られています。逆にそのために、私たちの中にはそういうものかと妙に納得したり安心したりしている節がなくありません。

一方、現代の若者の特性や傾向に関して、そうした時代相と深く同調しているとする見方や評価を、大人や若者自身の声の中に聴くことができます。「2013年日本人の国民性調査」（統計数理研究所／文部科学省）でも、20代で「平穏無事に暮らしたい」が5年前の19%から31%へと大きく増えています。同じく「まじめに努力していればいつかは報われるとは考えていない」と回答した20～30代男性が約4割と突出しています。こうした現実的な将来展望や、将来展望の相対的な暗さ、閉塞感は、他の国際比較調査の結果とも一致するところではあります。

他方、現代の若者は概して、コミュニケーションや自己アピールに積極的な姿勢を持っているようにも感じています。ものおじしないその様子を見てみると、小さな時からの体験と教育の賜物なのかと思ってしまう。また、前述の調査でも国民全体としては、「他人の役に立とうとしている」が大きく伸び（45% 対2008年比で9ポイント増）、「自分のことだけに気を配っている」が減少しています（42% 同9ポイント減）。この20年間で、日本人が稀有の大災害を二度経験したことの意味は決して小さくありません。

それにしてもなぜ“いじめ・非行をなくそう”県民運動なのでしょう。認知され報道されるそれぞれは、具体的で個別的な行為や事件ですが、“いじめ・非行”の本質は、反社会的な不法行為であるとともに、相互性の欠如による人間関係のゆがみであります。また、集団において共有できる価値のゆらぎととらえることもできます。さらに、大人には見えにくくても子どもには見えているという事情があります。

こうしたことから、山形県、ひいては国の将来を担う青少年の健全育成を妨げる“いじめ・非行”の防止・根絶に向けて、学校・家庭・地域が一体となって県民運動として進めることが大切なのです。

“いじめ”に関しては、当事者（加害者・被害者）にとどまらず、観衆（いじめを助長している層）、さらに傍観者（見て見ぬふりをしていじめを止められない層）の存在に関心が向けられるようになりました。人間関係とは決して限定的なものではなく、集団のメンバー間において複雑多様な濃淡をもっているのです。

先ごろ、山形大学模擬裁判公演「いじめ～救いの手はどこに～」を観る機会がありました。いじめを採り上げたこの裁判劇でも、傍観者（いじめを苦に自ら命を絶った男子高校生の友人の女子生徒）の苦悩に光を当てており、深く考えさせられました。

また、いじめや非行の特性を考えた場合、先行する「大人が変われば子どもも変わる」県民運動の重要性も強調しなければなりません。毎年秋に行われる「山形県少年の主張大会」での中学生の意見発表を聴いていても感じるどころですが、今回のサミットにおける高校生の意見・発言からも「子どもが変われば大人も変わる」というメッセージが伝わり、あたかも「大人が変われば子どもも変わる」という県民運動の決意と共鳴するかのようです。

今回の高校生サミットは、大人、そして弟妹に当たる小・中学生へのメッセージであり、県民運動の各レベルでの取組みを縦横に架橋するものとして、今後活かしていかなければなりません。

最後になりましたが、「いじめをなくそう高校生サミット」の実施にあたり、多大な御協力と御尽力をいただいた置賜地区高等学校生徒指導連絡協議会をはじめ、関係各位に改めて心より感謝申し上げます、巻頭のあいさつといたします。

平成27年2月

山形県青少年育成県民会議  
会長 柳谷豊彦

# 目 次

---

はじめに .....	山形県青少年育成県民会議 会長 柳 谷 豊 彦	
目 次 .....		1
いじめをなくそうポスター .....		3
いじめ防止優秀標語 .....		6
I いじめをなくそう高校生サミット .....		7
1 参加高校紹介 .....		8
2 コーディネーター、助言者プロフィール .....		9
3 開催趣旨説明 .....		10
4 高校生サミット .....		12
II いじめ防止スローガン .....		25
1 公立高等学校 .....		26
2 私立高等学校 .....		38
III 資料編 .....		43
「いじめをなくそう高校生サミット」に係るアンケート集計結果報告書 .....		44





# “いじめ・非行をなくそう” やまがた県民運動

## 平成26年度 優秀標語

村山地区

LINEより 声の会話が 人つなぐ

作者：東根市立第一中学校1年 笹原 真理子さん

最上地区

勇気だし いじめをとめる一言で  
減らせる悲しみ 増やせる笑顔

作者：新庄市立萩野中学校1年 伊藤結愛さん

置賜地区

いじめの芽 みんなでつめば えがおさく

作者：飯豊町立第二小学校4年 山口 怜さん

庄内地区

おもいやる ころろとことばで いじめゼロ

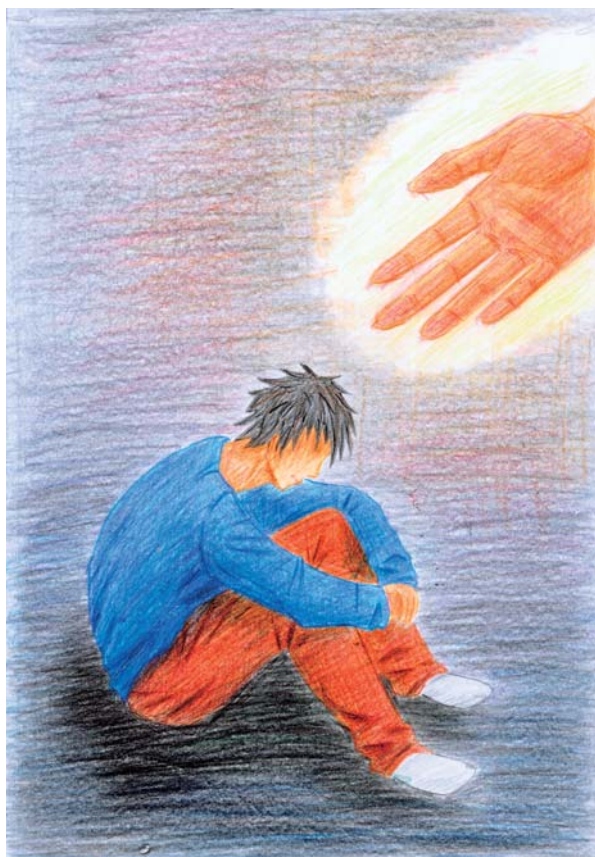
作者：酒田市立一條小学校2年 遠藤 鈴蘭さん

ポスター原画制作：山形県立楯岡高等学校1年 加藤 望

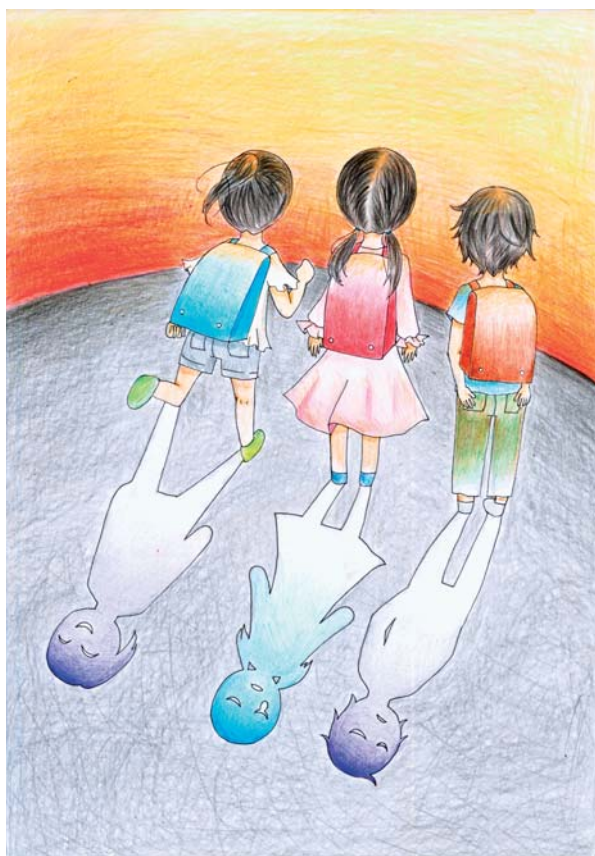
主催：山形県・山形県教育委員会・山形県青少年育成県民会議

制作者 県立楯岡高等学校美術部 1年 加藤 望

(いじめをなくそうポスター 応募作品)



制作者 県立楯岡高等学校美術部 1年 今野太暉



制作者 県立楯岡高等学校美術部 1年 鈴木夏実





制作者 県立楯岡高等学校美術部 1年 花澤文啓



制作者 県立楯岡高等学校美術部 1年 宮崎衿樺

## 平成26年度 いじめ防止優秀標語

山形県青少年育成県民会議では、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動の一環として、「いじめ防止」に係る標語を募集しました。

県内4地区（村山、最上、置賜、庄内）から合計41,449点の応募があり、以下の4点が各地区において最も優秀な作品として選ばれました。

### 村山地区

LINEより 声の会話が 人つなぐ

作者：東根市立第一中学校1年 さきはら 眞理子 まりこ さん

### 最上地区

勇気だし いじめをとめる一言で  
減らせる悲しみ 増やせる笑顔

作者：新庄市立萩野中学校1年 いとう 結愛 ゆあ さん

### 置賜地区

いじめの芽 みんなでつめば えがおさく

作者：飯豊町立第二小学校4年 やまぐち 山口 れい さん

### 庄内地区

おもいやる ころろとことばで いじめゼロ

作者：酒田市立一條小学校2年 えんどう 遠藤 すずらん 鈴蘭 さん

# I いじめをなくそう高校生サミット

---

山形県青少年育成県民会議では、平成25年度から“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動に取り組んでいます。

取組み2年目の平成26年度は、高校生がいじめの問題について自ら考え、取り組む姿勢を育む契機とするとともに、いじめの防止、根絶に関する理解・認識を深める場として、置賜地区高校生の協力を得て、「互いに認め合う人間関係づくり」をテーマに、山形県青少年健全育成県民大会の場で「いじめをなくそう高校生サミット」を開催しました。

- 1 日 時 平成26年11月9日（日）14:15～15:50  
（山形県青少年健全育成県民大会 13:00～16:00）
- 2 会 場 南陽市民会館 ホール  
（南陽市赤湯3004番地の1）

# 1 参加高校紹介

## (1) 山形県立米沢興譲館高等学校

明治19年に開校し、今年度で創立128周年を迎えます。「興譲館」という名前は、米沢藩の藩校に由来します。本校には「『興譲』の精神」という教育精神が受け継がれており、「自他の生命を尊重する精神」、「己を磨き、誠を尽くす精神」、「世のために尽くす精神」この3つが、本校教育の基本となっています。



いじめ防止 スローガン

いじめは しない させない 見逃さない! ~興譲の精神~

## (2) 山形県立南陽高等学校

本校は平成3年に宮内高校と赤湯園芸高校が統合して創立、今年で23周年を迎えます。

教育目標は、「自修・自律・自助・和敬」であり、「知徳体の調和がとれた視野の広い人間の育成、社会に貢献できる人間の育成」を目指しています。



いじめ防止 スローガン

「聞こえてますか? 心の叫び」  
「見直そう 相手に対するその言動」

## (3) 山形県立荒砥高等学校

今年で創立66周年を迎えた本校は、平成25年度より総合学科に改編され、生徒の多様な夢の実現に向けて新たなスタートを切りました。

「克己復禮」の校訓のもと、地域に貢献できる人材の育成を目指し、地域に根ざした教育を心がけ、地域のボランティア活動や地域と連携した職場体験やキャリア教育に積極的に取り組んでいます。



いじめ防止 スローガン

「自分には関係ない…」 傍観者(それ)でいいんですか?

## 2 コーディネーター、助言者プロフィール

### (1) コーディネーター

大隅 晃弘 氏

山形県公立学校教員。

現在、山形県教育センターに勤務し、教育相談課長として、児童・生徒・保護者向けの教育相談や教職員向けの教育相談の研修を統括。



### (2) 助言者



渡部 泰山 氏

山形県公立学校教員として県内各高校に勤務。

山形県教育庁教育やまがた振興課世界遺産推進室長、教育次長、世界遺産推進監等を歴任。

平成23年3月、山形県立山形東高等学校校長を最後に退職。

現在、山形大学大学院教育実践研究科教授。「いじめ防止等に係る学校組織体制の充実・強化プロジェクト」スーパーバイザー。

著書『東北芸術文化論』『山形現代美術館』他多数。

金澤 和子 氏

山形県公立学校教員として山形市内の中学校をはじめ、山形県教育委員会、山形市教育委員会等にも勤務。平成18年3月、山形市立第八中学校校長を最後に退職。

その後、財団法人山形県生涯学習文化財団山形県男女共同参画センター館長に就任。(平成18年4月～同23年3月)

現在、山形県青少年育成県民会議副会長。山形県社会教育委員、山形県家庭教育アドバイザー。





### 3 開催趣旨説明

山形県教育庁高校教育課長 石川 真澄

私からは、本県のいじめの現状や、いじめの定義、本サミットの開会趣旨をお話しさせていただきます。

受付で配布させていただきました、いじめをなくそう高校生サミットのリーフレット裏面の高校生サミット趣旨説明資料（P11参照）を使って説明させていただきます。

はじめに、本県のいじめの現状についてお話しさせていただきます。

昨年度、平成25年度は、県教育委員会で実施いたしましたアンケートを中心としたいじめ発見の取組み等により件数が急増いたしました。児童・生徒1,000人当たりのいじめが認知された件数は21.4件となり、およそ児童・生徒50人に1件のいじめが認知されたこととなります。このようにいじめが急増した要因ですが、その1つにはいじめの定義の変遷が挙げられます。

いじめはどのように定義されているのでしょうか。会場の皆さんのなかには「1 弱い者に対して一方的に」、「2 攻撃を継続的に加え」、「3 深刻な苦痛を感じているもの」と、捉える人がいるかもしれません。しかし、この考え方では複雑化、潜在化するいじめに対応できない、ということで、現在はこの定義は使われておりません。

現在のいじめの定義は、いじめ防止対策推進法第2条に記載されております。ポイントは、「1 ほかの児童・生徒が行う」。この「ほかの児童・生徒」には、同じ学校、クラス、部活動の児童・生徒はもちろんのこと、様々な学校や地域から集まるスポーツ少年団やスポーツクラブの児童・生徒、あるいは、最近ですと携帯電話やスマートフォン等で知り合った児童・生徒も含んでおります。

二つ目、「心理的、物理的な影響を与える行為」です。前の定義では、「攻撃的」だった行為も、「影響を与える行為」と変更しています。これは、殴ったり、蹴ったりなど相手に対して自分から関わる攻撃だけでなく、気に入らないから話をしないなどの、集団化した無視や仲間外れも「いじめ」と認知するなど、広くいじめを認知するためにこの定義を変更しております。

そして、三つ目、「心身の苦痛を感じているもの」をいじめとしています。苦痛を感じている児童生徒に寄り添って、いじめという現象を解消したいという思いから、広くいじめとして認知できるよう、このような定義となりました。本県では、平成25年度のいじめの認知件数が急増しておりますが、このような定義のもと、いじめを積極的に認知し、解消に繋げようとしております。

それでは、いじめの態様はどのようになっているのでしょうか。いじめの態様は、9種類に分類しております。その中で、最も件数が多いのは、冷やかしかからかい、悪口や、脅し文句、嫌なことを言われる、ということです。何気なく言った一言が、言われた方からみれば苦痛と感じられ、それがいじめに繋がっています。ですから、いじめは表面的には見えにくいもの、となる訳です。

このようなことから、置賜地区の高等学校では、人間関係を阻害するようないじめに発展するのを防ごうと、「互いに認め合う人間関係づくり」をめざし、各学校全体で取り組んでおります。その一例として、お手元の資料に各学校で作成した「いじめ防止スローガン」を掲載いたしました。その他にも、学年を超えてグループ討議をしたり、学園祭でいじめ防止の取組みを発表し全校で共有したり、あるいは、ボランティア活動やあいさつ運動を推進することで、他を思いやる気持ちを醸成したりしております。

今回の「いじめをなくそう高校生サミット」は、副題にある「～互いに認め合う人間関係づくり～」に向けて、置賜地区の高等学校で実践している取組みを、地区を代表して3校から発表してもらい、本日ご参加の皆様はもちろんのこと県全体で共有し、いじめの根絶に繋げていくために開催するものです。ご参加の皆様には、このような趣旨をご理解いただき、高校生の積極的な取組みをお聞き頂ければと思います。

# 高校生サミット趣旨説明資料

## 1 山形県のいじめの現状（生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査【文部科学省】より）

年 度	23年度	24年度	25年度
いじめ認知総数	359	576	2,712
小学校認知件数	75	178	1,411
中学校認知件数	135	200	796
高校認知件数	131	192	496
特別支援学校認知件数	18	6	9

## 2 いじめの定義（文部科学省による）

### 旧定義（～平成17年）

「自分より弱いものに対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。」

### 新定義（平成18年度～平成25年6月）

「当該児童生徒が、一定の人間関係にある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」

### 新定義（いじめ防止対策推進法第2条）

「一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの。」

## 3 いじめの態様（文部科学省による）

① 冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	
② 仲間はずれ、集団による無視をされる。	③ 金品をたかられる。
④ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	
⑤ ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	
⑥ 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	
⑦ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	
⑧ パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	⑨ その他

## 4 置賜地区高等学校いじめ防止スローガン

米沢興譲館	いじめは しない させない 見逃さない！～興譲の精神～
米沢東	いじめ0 作りたいのは笑顔100
米沢工業	いじめと決めるのは あなたじゃない
米沢商業	いじめ、ダメ、絶対
置賜農業	個性があってあたりまえ とめようよ とめれば増える 笑顔の花
南陽	「聞こえますか？心の叫び」「見直そう 相手に対する その言動」
高畠	改新 ～Smile Changes All～
長井	温厚篤実
長井工業	無くそうイジメ 増やそう仲間!! いじめをなくし、一人ひとりが思いやりのある心を持とう
荒砥	「自分には関係ない…」傍観者（それ）でいいんですか？
小国	広げよう 心の視野 止めよう 負の連鎖
九里学園	もうやめよう 見て見ぬふりと 傍観者 先生も 生徒の変化に 敏感に

## 5 開催趣旨（「山形県いじめ防止基本方針」より抜粋）

いじめに与しない児童生徒の育成のため、県、教育委員会、学校、警察及び青少年健全育成団体などが一体となり、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動を展開することにより、児童生徒が率先して運動に取り組むとともに、その取組を大人も共有・共感し、具体的な行動につなげていく。

## 4 高校生サミット

### 参加高校生

山形県立米沢興譲館高等学校生徒自治会	会長	(以下、「興譲館」)
同	執行部員	(以下、「興譲館」)
山形県立南陽高等学校生徒会	会長	(以下、「南陽」)
同	議長	(以下、「南陽」)
山形県立荒砥高等学校生徒会	会長	(以下、「荒砥」)
同	事務局員	(以下、「荒砥」)

### コーディネーター

山形県教育センター 教育相談課長 大隅 晃弘

### 助言者

山形大学大学院 教授 渡部 泰山  
山形県青少年育成県民会議 副会長 金澤 和子

(敬称略)

## 《参加校のスローガンと取組み》

**大隅** 山形県教育センターの大隅と申します。

教育センターではいじめ電話相談ダイヤルというのがありまして、24時間対応でいじめの相談にのっております。日々そこで感じることは、人の心の在り方、人の心の感じ方というのは、人によって皆違うものだという事です。

その人の心の在り方の違いについて、ここでちょっと実験をしてみたいと思います。サミットに参加の皆様も、会場の皆様にも是非ご協力いただきたいと思います。皆さんの心はどこにありますか？目をつぶって、自分の心があると思うところに手をあてて下さい。では、手はそのままにして目を開け、周りの方を見て下さい。やはり頭をおさえる方と、あと、心臓ですね。私は、よく学校の研修会に講師としてお伺いする時があるのですが、いじめの研修会では必ずこれをします。中にはおなかを押さえる方もおられまして、人によって心の在り方というのは違いますし、それは、外からは見えないです。

先ほど高校教育課長からも定義の説明がありましたけども、いじめの基準が、心身の苦痛、特に心の苦痛というところにありますので、我々は、苦痛を感じる心の在り方が人によって違う、ということをやはり前提にしていかななくてはいけないと思います。本日の議論はこの点をふまえて、進めていただきたいと思っております。

さて、今年は“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動は2年目ということで、各高校ではいじめの防止に向けたスローガンを作成し、さまざまな課題に取り組んでいると聞いております。せっかくの機会ですので、サミットに参加されている各高校さんから、それらの内容を発表していただきたいと思います。よろしいでしょうか？

初めに、米沢興譲館高校さんからお願いします。

**興譲館** 私たち、米沢興譲館高校のいじめ・非行をなくそうスローガンは、「いじめは しない させない 見逃さない！ ～興譲の精神～」です。

私たち、生徒自治会執行部では学校のいじめ防止基本方針を受けて、4月に議案書の第三号として、いじめ防止とこのスローガンについての議案書を作成しました。そして各クラスの議案書審議

と代議員会で可決され決定されました。

本校には興讓の精神と呼ばれる教育精神があります。具体的に3つあります。

1つ目は 自他の生命を尊重する精神

2つ目は 己を磨き誠を尽くす精神

3つ目は 世のために尽くす精神

です。これは、上杉鷹山公によって作られた藩校時代から約三百年間、教育だけでなく普段の生活や社会に出てからも通用する心得として、先輩から後輩へ伝えられて来ました。私たちも先輩方や先生方の姿を追いかけて、この精神を常に心に留めて生活をしています。そしてこのスローガンは興讓館生のあるべき姿である、興讓の精神を元に作られています。いじめに対する私たちの姿としてもっともシンプルかつわかりやすくなっているのではないのでしょうか。



参加校によるスローガン発表

#### 大 隅

なるほど、「ならぬものはならぬ」ということ、時代が変わっても私たちがいじめに対して取るべき姿勢は変わらないということですね。藩校時代から続く武士道精神を感じました。

次に南陽高校さんお願いします。

#### 南 陽

南陽高校では、「聞こえてますか？ 心の叫び」と「見直そう 相手に対するその言動」の2つのスローガンを執行部の考えとしてまとめ、1学期の終業式で、全校生に提示しました。

この2つのスローガンに決まった理由として、自分の発した言葉が、相手に「どう聞こえているのか」や、相手は「何気ない自分の言葉に傷ついたりしていないか？」ということ、を、しっかり考えるようにしなければならない、という意見が、執行部の話し合いでとても多く出たからです。この2つのスローガンを全校生に広めていくために、ポスターなどを作り校内の様々なところに貼って、「いじめのない南陽高校」にしていけたらと思っています。

また、9月のロングホームルームでは、全校一斉に「いじめ防止に向けたクラス討議」を行いました。ある県で起きた2つの具体的な事例を基に、同じ観点でその問題について話し合いました。二人のホームルーム委員が司会として会議を進め、「自分なら何ができるのか」、「大人・先生には何をしてほしいのか」などを班ごとに考えを述べました。

いじめについて真剣に考えていく良いきっかけとなったと思います。

#### 大 隅

南陽高校さんのスローガンは、相手の心を思いやって、自分の言動に気を付けていこうということですね。いじめの定義を踏まえると、とても大切なことだと思いました。

次に、荒砥高校さんお願いします。

#### 荒 砥

最初にスローガン『「自分には関係ない…」 傍観者（それ）でいいんですか?』について説明します。

荒砥高校では今年度5月の生徒総会で「いじめのない学校を作ろう」という呼びかけを生徒会長が行いました。このスローガンはその呼びかけを受け、すべての生徒がいじめのない学校作りに向け、自分たちの思いを込め考えたスローガンの中から選ばれたものです。本校は生徒同士がお互いを認め合い、かけがえのない仲間として互いを思いやる気持ちを大切にしている、生徒一人ひとりが主役となれる学校です。



このスローガンには、いじめを見て見ぬふりをする行為に対し、生徒自身が「それでいいの？」と問いかけながら、お互いを思いやる気持ちを大切に、いじめのない学校をめざそうという思いが込められています。本校の良さを大事にしながら、更に「いじめ」をなくそうという意識を強く持ち、お互いを思いやり尊敬する「リスペクト」という気持ちを大切にしていきたい、と思っています。

**大 隅** いじめの問題は、加害者、被害者だけではなくて、それを見て見ぬふりをしている傍観者にも問題があるという考えがあります。荒砥高校さんは、その点まで踏み込んだ非常に画期的なスローガンだったと思います。

以上3校の発表をお聞きしましたが、ここで助言者の意見や感想をお伺いしたいと思います。  
渡部先生、いかがだったでしょうか。

**渡 部** 今、3校の高校生のリーダーの方々から、学校での取組みについて、丁寧な発表をいただきました。実は、青少年育成県民会議のみなさん、それから高校生という立場で登壇しているみなさんが、このように同じ会場で1つになっていじめの問題を議論し合うというのは、これまでなかなか無かったことです。

このいじめの問題というのは1980年代後半から、日本だけではなく世界的に大きな問題になってきました。ヨーロッパ、イギリスやフランスなどでは、比較的早くから地域社会が前面に出ていくような取組みもありましたし、日本の場合は、日本の社会風土の中でこういうこともよくあるものだというような環境にも包まれて、国は、いじめの解釈について二転三転して変えてきた、というような経過もあります。

今日高校生の皆さんが発表したことというのは、実は、いじめ問題に対する具体的な方法論のなかでは、核心をついた発表だったと思います。

平成24年度、東京都教育委員会でいじめ問題の研究という、実に約14,000人を対象にしたアンケートでかなり本格的な研究がなされました。そのなかには、高校生が大人に聞いてほしいというような率直な議論も学校の中でなされた、ということもありました。

この研究で、いじめられた子どもたちがその時いったいどのような人に相談をしたか、しなかったかという調査がありました。実は、「相談をしなかった」というのが51.8%にものぼります。半数以上は、相談をしないのです。相談しなかった理由というのは、「誰に言っても解決しない」、あるいはまた「関わりたくない」、「これ以上に仕返しされるから」という、かなり人間関係では深刻な状況のなかで、このように相談できないということが明らかになっております。

こうした問題に対して、高校生の皆さんが学校で、一緒になっていじめの問題をなくしていこうという取組みに対して、我々大人がどのようにこの高校生の声に真摯に耳を傾け、一緒になってこの問題をどう解決していくのか、そのことを深く考えさせられました。

**大 隅** それでは金澤先生いかがでしょうか？

**金 澤** 私どもの県民会議でも、昨年来“いじめ・非行をなくそう”県民運動ということで様々な取組みを、会長さんを中心に、各地区で、会員の方、PTAの方に呼びかけて頑張っているのですが、はて、どのようにして進めるのがいいのかというのは、まだ本当に模索しながらできることを頑張っている、というのが活動の状況です。今、高校生の皆さんからお聞きしたスローガンと取組みは、まさにいじめをなくす為に不可欠な取組みばかりだったと思っています。

さて、私たちが今本当に悩んでいるいじめという問題は、学校だけではなくて、家庭でも、地域でも、大きく取り上げられている問題です。こんなに豊かになり、子どもたちの数も少なくても大切に育てられ、しかも便利になっているのに、なぜかちょっと幸せ感が少ないな、というような子どもたちが増えているように思います。



それで、昔と違って何が無くなったのだろうかと考えてみると、それは、子どもの周りで目を配る大人の減少ではないのかと思いました。私たちが幼いころは、夕方遅くまで神社の境内などで遊んでいると、近所の大人が「もう家に帰れ！」と叱ってくれましたし、お買い物は近所の小売店に行き、挨拶をして、「間もなく運動会だなあ。頑張れよ！」とか、そういう声をかけて頂きました。そういった大人の方たちの姿が今はほとんどないこと、それから家族も減っていること、兄や姉に学んだり、祖父母の姿にモデルを見つけたりするのがなかなかできなくなったこと、このような状況で、やはり子どもの問題は、少子化も同じですけども、大人の問題ではないかと感じております。

私自身、昨日・一昨日まで、無くなったものは何なんだろうと一所懸命考えたのですが、やはり皆さんが先ほど話されたように、私たちはいろんな人がいっぱいいて、そして社会を作っているわけですから、性格も考えも夢もみんな違うわけです。その方々で、なんとかお互いの良さを見つけて、助け合いながら幸せな社会を作るといようにしていかないと、もうこの社会はギスギスして、様々なトラブルも起きたりするということでございます。ですから、私たちはこれからいじめをなくすには、どういう人間関係を作るかということ、これがやっぱり一番大事な問題かなと思います。高校生の皆さんのスローガンや取組みの中にも入っておりましたけれども、いかに人間関係を作っていくかということではないかと改めて感じました。



金澤先生のご発言

## 《互いに認め合う人間関係づくり》

**大 隅** 今お二人の先生からお話がありましたけれども、今日参加している高校生の皆さんからは、是非、皆さんの学校で話し合った高校生の生（なま）の声を、会場の皆様に届けて頂きたいと思います。

これから、皆さんの学校で話し合ったこと、それから取り組まれていることについて、いくつか質問させていただきます。ただいま、金澤先生から人間関係についていろいろとお話を頂きましたけれども、いじめは人間関係の中から生まれると考えれば、良い人間関係をつくることができれば、おのずといじめを防止することができる、ということですよ。そこを踏まえて、最初の質問になりますが、皆さんの学校では互いの人間関係づくりについて、どんな意見がでましたか？また取り組むうえでの課題は何ですか？お伺いしたいと思います。

それでは、南陽高校さんお願いいたします。

**南 陽** 互いに認め合う、互いを尊重する人間関係が大切だと思います。

私たちは、性格も顔も体形も違います。外見や身体的なこと、学力、家族のこと、経済的な理由、こうした理由でその人を責めることは誰にもできません。そんなことがあっては絶対にいけないと思います。良い人間関係を作っていくために学校全体として取り組むこととしては、「学校行事を通じて交流をはかる」、「生徒会でスローガンを作成し生徒の心にしっかり刻みこめるようにする」、「いじめ問題について真剣に話し合う時間を作る」といった意見が出ました。

クラスでできる取組みとしては、「特定のグループを作らず、たくさんの人と話をして、“一人ひとりのことをよく知る”」という意見が出されました。

こうした取組みをするうえでの問題点としては、「いじめはいろいろなケースがあるので、話し

合っても完全な解決にはならない。」「ある程度のグループがクラスの中でできてしまっているのに、他のグループになかなか入っていかなくて、話をすることができない。」といったことが考えられると思います。

**大 隅** たしかに、いじめを完全に解決するのは難しいわけですがけれども、今の南陽高校さんのお話では、学校で取り組めることは、いろいろあるということですね。

それでは、次に荒砥高校さんお願いします。

**荒 砥** 本校では、相手を理解し、互いに尊重し合える関係を作り、相手の気持ちを考えながら、しっかりと自分の意見を言い合えるような学校となる取組みとして、スローガンポスターを作成し、校内に掲示し、全校生の意識の共有化を図る。お互いの存在を確かめ合う挨拶を強調し励行する。小規模校の利点を生かして、生徒一人ひとりがお互いに目を配り認め合いながら、互いに「リスペクト」することで尊敬し合える関係を作っていくなどの意見が出されました。取組みを進めていく中で、大事なことは「みんなでやろうとする気持ち」であるとされました。今後は、相手を尊敬・尊重する「リスペクト」という言葉をキーワードに、お互いを尊重し、認め合う気持ちを高める活動を「荒砥高校リスペクト運動」として具体的に行っていきたいと思います。

**大 隅** お互いに「リスペクト」、尊敬し合う関係を作っていくということですね。素晴らしいですね。それでは、次に米沢興譲館高校さんお願いします。

**興譲館** 米沢興譲館高校では、まず、学校全体の取組みとしては、自分の得意分野で活躍できるようなさまざまな行事を開催すること、定期的な学校生活に関するアンケートの実施、信頼できる人を見つけるために交流の場をもうける、先生への挨拶、生徒間での挨拶をする、などという意見が出されました。

また、学級の取組みでは、相手の長所を紙に書くといった、互いを認め合えるような環境づくり、人との関わりを増やし、笑顔で過ごせるような雰囲気づくりを通して信頼できる人を見つける、入学式やクラス替え後に自己紹介の場をもうけて人と話す機会をつくる。中には一人でいたい人もいます。その人のために一人でいる人への偏見を持たないといった、一人でいたい人のための環境づくりをする、という意見が出されました。

しかし、これらを行う上で、交流の場をもうけても、知り合い同士で固まってしまうという問題点も出されました。

**大 隅** 今の話の中で、一人でいたい人がいる、その人のためにその人のための環境づくりをする、というお話がありましたけれども、興味深いなお聞きしました。各学校の発表に共通して、より良い人間関係をつくるためにはお互いに認め合う人間関係が大切だというポイントが入っていたと思います。またそのために学校や学級で様々な取組みが考えられていて、大変感心しました。

それでは、もう1つ質問したいと思います。

学校や学級での取組みはよくわかりましたが、人間関係は個人対個人の場面も多いですね。皆さんの話し合いの中で、生徒一人ひとり、個人が取り組むうえでどんな意見や課題が出されたのか、お伺いしたいと思います。

荒砥高校さんからお願いしたいと思います。

**荒 砥** 相手を第一印象で決めずに、積極的に相手の良いところを見つけるように意識して、お互いに一人ひとりの存在を尊重した生活を送れるようにすること。相手のことを思いやりながら、相手を尊敬する「リスペクト」の気持ちを持つこと、などが話し合われました。

**大 隅** 荒砥高校さんの取組みは、「リスペクト」というのがキーワードになっていますね。やはりお互いを尊重しようということが、より良い人間関係を築くために一番大切なことですね。次に、米沢興議館高校さんお願いします。

**興議館** 米沢興議館高校では、一人ひとりの取組みとして、「常に特定のグループで行動しない。他人の欠点を認めて、長所を探そうとし、先入観を持たずに接する。自分を積極的に相手に知ってもらう。第一印象を大事にする。困っている人を助ける。思いやりの心を持ち、正直である」といった意見が出されました。しかし、人は誰も多少の先入観は持つてしまうと思います。先入観や偏見を持たずに人に接するのは、難しいことです。また、学年や性別が違えば、関わったり話したりする機会も少ないので、学年や性別を超えた互いに認め合う人間関係の形成は難しいのではないかと、といった課題も出されました。

**大 隅** そうですね。先入観をもたずに人と接するというのは、われわれ大人でも大変難しい課題だと思います。最後に、南陽高校さんお願いいたします。

**南 陽** 南陽高校では、一人ひとりが意識することとしては、「相手の良いところを探し、悪いと思うところも理解できるようにする」、「自分の何気ない言葉が相手を傷つけていないか、言葉を発する前に考える」といった意見が出されました。課題としては、人の悪いと思うところを理解するのは難しい、というところが出されました。

**大 隅** 今のお話の中で、言葉を発する前に考える、というのは大変重要だと思いました。高校生は、メールとかLINEとかいったSNSを使いこなしているわけですが、ネット上に載った言葉というものはもう二度と変えることはできませんからね。そのところを普段から心がけていくというのは、非常に大切だと感じました。

各学校でいじめをなくすために、様々な取組みが議論されていて大変興味深いと思いました。それではここで各学校の議論を踏まえまして、金澤先生からご意見をお伺いしたいと思います。



大隅先生によるコーディネート

**金 澤** もうこれだけネット社会が広がりまして、さまざま社会の中でも人との関わり方がどんどん薄くなって、顔も見えない関係のお友だちができたりして問題が起きている場合も多く、痛ましい事件も最近をよく新聞などにも載っております。その中でこの3校の皆さんが、それぞれ共通しておっしゃっていたことが、お互いを尊重する、つまり相手も尊重することを挙げておられること、それから、相手の違って良さを認めながらお付き合いをしていくというようなこと、これも共通して挙げられていたと思います。

私たち大人の社会でも、合う、合わないと思う時があるのですが、合わないと思う方にはそれなりの付き合いで、偏見を持ったり仲間外れにしたりしないで認めてあげるというようなこと、一人でいたい方には一人でいられるような環境づくりまでを考えたいというようなこと、これは、まさにいじめを防ぐ最高の取組みではないかと思っています。

私たちは人間関係をつくっていく上で、顔対顔で顔を見て話す場合と、ネット上とかそういった

もので中傷、誹謗を繰り返したりしていじめが続く、などという場合がございます。便利ゆえに危険も潜んでいるという、本当に私たちの子どもの時代では考えられなかったような状況に皆さんがあることを改めて感じました。

私たちは皆さんの取組みを見て、大人たちもお手本になるように行動しなければならないなどと思って、お聞きしております。内容を整理しますと、皆さんがやはりリスペクト、尊重する、認めるということを一番根底に考えておられること、これは取組みの中でとても大事なことで、これからも頑張ってくださいと思います。

## 《大人へのメッセージ》

**大 隅** 金澤先生から、生徒たちのお話をまとめていただきました。

それでは、これまでの議論の中から子どもたちのいじめに対する姿勢というのが明らかになってきたと思います。

最後に子どもたちが大人に対して具体的にどのような対応をしてほしいのか、聞いてみたいと思います。われわれ学校の教師も、なかなかこういうことを聞くということは稀でございます。ほんとに高校生たちが話し合っ、大人にメッセージとして伝えたい、ということで話をまとめていただきましたので、ぜひ話を聞いて頂きたいと思います。

それでは、米沢興譲館高校さんからお願ひします。



ステージ上での意見交換

**興譲館** 米沢興譲館高校では、親や地域の大人には、「子どもを注意して見て、気持ちを把握してほしい」、「みんなが仲良くなれるような取組みを考えて、実施してほしい」、「もし、いじめや喧嘩があったとき、子ども同士のことなので基本的には介入するべきではないが、危険だと判断した場合は、介入して何らかの手段を講じてほしい」こういった意見が出されました。

**大 隅** 次に、南陽高校さんお願いします。

**南 陽** 執行部の話し合いでは、「子どもたちのことをよく見て変化に気付いてほしい」、「見て見ぬふりをしないでほしい」という意見があった一方で、クラス討議では「かえって悪い状況を招くので、構わないでほしい」という意見も多くありました。

大人といっても先生と親とは違うと思います。今自分が人間関係で嫌な思いをしているとしても、親に相談をして親がその相手に対してなにか行動を起こしてかえって状況が悪くなってしまうかもしれないし、また親に余計な心配をかけたくない、という思いからあまり親に話をすることはしないのだと思います。学校の先生は相手のことをよくわかっているのだから相談はしやすいと思います。

**大 隅** 最後に、荒砥高校さんお願いします。

**荒 砥** まずは温かく見守り、私たちの話に耳を傾け、私たちのいろいろな表情や言葉の変化に気づいてほしいと思います。いじめを受けている人は、あまり親にはそのことを言いたがらないと思います。



だからといって、しつこく聞くと余計子どもを追い詰める結果にもなります。子どもの気持ちをよく考えて、聞いてほしいと思います。

また、私たちで解決できる場合もあれば、大人が入らないと解決できない場合もあります。私たちで解決できることに大人が入ると、逆にややこしくなる場合もあるので、しっかりと見極めてほしいと思います。

## 大 隅

ただいまの高校生の大人へのメッセージは、微妙に揺れる高校生の本音が表れていると思いました。「自分たちで解決できることは自分たちにまかせてほしい。大人が介入すると逆にこじれる場合もある」と。でも、「本当に困ったときは助けてほしい。そしてその微妙なところを察してほしい」ということですね。これはなかなか難しいですね。

この高校生のメッセージに、私たち大人はどう答えたらいいのでしょうか。渡部先生、今の生徒たちのメッセージについてご感想をお聞かせください。

## 渡 部

高校生の言葉が、一つ一つ針のように自分の中に刺さってくるという感じを持ちました。

私も元々高等学校の教員からスタートした人間ですので、自分が担任をした頃のことを思い出していました。皆さんのそういった思いというのを、教師が、あるいは保護者の方が、どれほどの想像力を持って受け止めるかということが、私たちに課せられた課題だなと思いました。

実は私、ちょうど今から20年ほど前に、ある高等学校で、新入生を迎える1学年の担任をしていました。日本の社会の中で、いじめがかなり深刻なレベルまで達していた時代で、1990年代でした。やはりその当時勤務した高等学校でも、中学校でもいじめの問題は深刻で、このことを避けては学級経営が成り立たないという感じを、数年間ずうっと持っていました。

その時の入学式、私は担任として生徒、保護者の前で、話したことがありました。「楽しいクラスを作りたい。担任として、みんなが笑顔で、みんながそれぞれの役割を發揮できるようなクラスを作りたい。でも、どうしても僕はみんなのクラスの担任になれない時があるかもしれない。もし、1人でも私たちのクラスにいじめられる子どもがいたら、担任の僕は、その1人のためだけの教師になります。どんなことがあってもその子どもを私が守ります。だから、皆さんの担任になれないかもしれない。」という話をしたことがありました。

それが1人の教師として正しいか、正しくないのか、私にはわかりません。でも、一所懸命考えて、どんなクラス経営をしたいのかということを保護者にも子どもたちにも訴えようとした時に、どうしてもこのクラスを楽しいクラスにしてみんなが伸びやかなクラスにして、そしてみんな卒業したいという、そういう切実な思いから出た素直な教師の言葉だったと思います。



渡部先生のご発言

さて、今の高校生の話を聞いた時に、学校の教師、保護者や地域の方は、それを受け止めていく学びの環境が整っているのだろうか、と不安になりました。例えば、いじめ早期発見のためにどうすればいいか、実は、アンケートの結果などでは、いじめがあったとき学校の先生1人だけで抱えることも少なくないのです。1人の人生に関わるかなり深刻な重要な問題に、例えば今の教員の研修体系の中で、このいじめに関する専門的な悉皆研修のシステムを作るとか、いじめ防止推進法では国とか県とかそして各学校には対策を義務付けており、それを受けてど



んな形で委員会を立ち上げるか、今、子どもさんの切実な思いを受け止めることができるようなちゃんとした組織、キャパシティをもっているのか、その先生方は研修を積んでいるのか、あるいはまたその委員会に保護者や地域の方はどのような形で参画したらいいのか、私は、まだまだこれから私たちがやらなくてはいけないことが数多くあると思っています。それでも高校生の皆さんの大人へのメッセージを、本当に真に受けとめる私たちのデリカシーと想像力をしっかり持って、これから一緒になって、いじめ防止に対して力を合わせていけたらなあというような感想を持ちました。

**大 隅** 金澤先生いかがでしょうか？

**金 澤** 今、高校生の皆さんがメッセージを下されたこと。地域の大人として気づいてほしい、そして温かく見守ってほしい、変化にも気づいてほしい、そしてどうしようもないときは介入してほしいということ。はたして、私たち大人はどのくらい介入したりできるかなとか、地域の子どもの顔を浮かべながら、あの子たちの表情の変化はどうしたらわかるかなとか、真剣に悩んでいました。

ある子どもさんの話ですが、いつも「おはよう」と言っても挨拶を返してくれない無愛想な子どもさんだったのですが、たまたま新聞記事で知って、テニスのラケットを持っていた時に「テニス入賞したんだってね、おめでとう」と言ったら、突然自転車を止めて、「ありがとうございます。中体連も頑張ります」と言われたことがありました。この時は、ちょっとうれしくなって、ああ、やっぱりいろいろアンテナを高くして地域の子どもの良さ、地域の子どものすばらしいこと、これも小さなことから大きなことまで、地域の大人として応援してあげようという気持ちを持たなきゃならないなと感じました。

同じように、大変なことを見つけられるかどうか、これは本当に私たちにとってはこれからの課題で、まだまだ模索しながら、県民会議でも、さまざまな啓発・広報活動、それからシンポジウムや研修会をしたりして勉強はしていますが、今日の高校生の皆さんのメッセージをお聞きして、これから地域に持ち帰って、なんとか頑張っていこうと思います。私自身も今日メッセージをお聞きして、本当にもっと敏感な目と心と持ち続けなければならないと、改めて思いました。

## 《会場参加者への問いかけ》

**大 隅** 敏感な目と心を持って、というお話でした。

ここで、昨日地区の高等学校PTA研修会があったということで、本日、その研修会に出席した置賜地区高等学校PTA連合会の高橋会長さんがお見えになっております。研修会の内容や、これまでの話し合いをふまえての感想等をお話いただきたいと思います。

高橋会長さん、よろしくお願ひします。

**高 橋** 全ての高校で同じようにスローガンを決めて、真剣にいじめの問題に取り組んでおられることについて、本当に、大変素晴らしいことでもありますし、また、生徒の皆さんが自らこのいじめ撲滅に向けまして話し合い、行動をされることは、同じ高校生が行動を起こす、これが一番効果があるし、また周りにも説得力のあるものではないかと思ひます。本当にご苦労様です。

さきほど、大人に対してどんな対応をしてほしいというご意見がありました。本当に私も聞いておまして、グッとくるようなものがありました。親の立場として真剣に受け止めたいと思ひました。特に子どもをよく見守り、変化にすぐ気づいてほしいと申しますか、敏感に気づいてほしいということ、また大人が介入する時期を見極めていろいろ行動していくことも出されました。その通りだと思ひます。これらのこともPTAの中で伝えていきたいと思ひます。

昨日、8日ですが、米沢で地区高等学校のPTA連合会の研修会を開催しました。今年度は、PTAとしてもいじめ防止について勉強する必要があるということで、いじめ問題をテーマとしました。講師は京都大学大学院医学研究科准教授の木原雅子先生です。演題は、「いじめを考える私たち大人にできることは何か」でした。木原雅子先生は全国高等学校PTAの協力委員ということで、いろいろと相談にもものっていただいております。

多くの高校生の意識調査や直接インタビューなどを重ねておられ、そのテーマ、データを基に講演をいただきました。特に印象に残ったのは、今はネット社会ということで、ネット依存が、これは全国的なデータですが、高校2年生で男子のネット依存が25%、女子が35%という数字が出ているそうです。このネット依存の子どもたちは、いじめなどのリスクが2、3割高いということで、顔の見えないお付き合いという中で、裏腹な部分があるのかなと思います。

一方、フィルタリングとか使用時期の制限等について、全く注意していない親が半分近くおられるということでした。ネットやこういったIT関係のLINEなどについては親が関心を持ち、子どもに相談されたときは適切なアドバイスができるように勉強していく必要があると感じました。やはりIT関係は子どもの方がかなり詳しいということを考えますと、子どもと一緒に正しい使い方とか付き合い方を話し合う機会を持つことが大切な、ということも感じました。



発表に聴き入る参加者

周囲に自分の将来を心配してくれる人がいない子どもほど、ネット依存やいじめなどのリスクが高いということでした。現実の社会の中で、親や先生などの大人の見守りや関わりが必要であること、いじめにつながりやすい背景が、その無関心の中にはあるという話でした。そのような環境の中で、自分は人の役に立った、役に立つ人間だとか、将来の希望に向けて勉強したいとか、自尊心や自己肯定感といったことを持った子どもに育つよう親や周囲の大人が関わりを深めていくことが大切だ、ということを感じたところです。

最後になりますが、いじめ撲滅へ向けて、お互いの違い、個性を互いに認め合う豊かな人間関係をつくり、地区の学校や生徒が取り組んでおられることに、本当に敬意を表する次第です。今後とも、PTAも一緒になって取り組んでいきたいと考えております。本日、高校生サミットが開催されたことに本当に感謝し、また今後とも高校生の皆さんが、将来に向け進路や夢に向かって、のびのびと目指してゆかれることを、私たちPTAとしても一緒に取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。(拍手)

**大 隅**

それでは、ここでご来場の皆さんで、これまで議論されたことへのご感想、あるいは、高校生の大人のメッセージに対するご発言を頂ける方いらっしゃいましたら挙手お願い致します。

はい、それではそちらの方、どうぞお願い致します。

**佐 藤**

米沢から参加させて頂きました、佐藤勝三と申します。

高校生の皆さん、素晴らしい話題を提供して頂きましてありがとうございました。この発表内容は、山形県発で日本全国に広がること間違いのないと思います。

私も今まで、いじめている方の加害者を対象に、取組みの協力とかサポートをして来たんですが、この中でもいじめられている子どもさんというのはなかなか難しく、加害者100人の指導よりも被害者1人の方が難しいくらいなんです。でもこうやって、この会場に居られる方は一人ひとり、今、発表された高校生の方々の話に感動されたと思います。我々大人が、高校生が安心して学校に通えるような環境を作ると同時に、色々な各役割を持っているトップの人たちが周りと一緒に取りながら、そして、子どもたちの話をよく聞いたりしていくのが一番具体的にやれていることだということも、一つ痛感した所でございます。

米沢の場合ですと、高校生に関しまして、平成15年頃から警察署長さんと学校で学警連という組織を作りまして、校長先生たちの仲間を作って頂いて、あと、警察署の生活安全課の指導の下、学校とコミュニケーションが取れるような状況ができております。困ったとき、お互いに目的はみんな一緒だと思います。やっぱり大事なのはコミュニケーションだと思うので、これを活かして未来ある子どもたちを支えてあげたいと思っております。よろしくお願い致します。(拍手)

**大 隅** もう一方、こちらで手が挙がった方がいらっしゃいます。どうぞご発言ください。

**大 澤** 地元南陽市民会館の館長をしております大澤と申します。  
発表して下さった高校生の方々、皆さんのいじめに対しての真摯な活動、取組みが、これから実を結ぶと思いますので、ぜひ頑張ってください。

赤湯地区では、11月15日に小・中学生・高校生を交えて地域の大人たちとの話し合い（まっすぐミーティング）を行います。まっすぐミーティングでは、今までいじめの問題を話し合ったし、今年度は、LINEやスマホ、携帯電話等についての話し合いをする予定です。LINEですぐに返事を返さないと、その次から無視される場合があると聞いています。高校生には、人間関係をうまく持つていくために、どうしていったらいいのかということとLINEへの対応を考えてほしいと思います。人間関係をうまく作るには、声と声、あるいは顔と顔をあわせて話し合うことが大切であり、人のよさを見つけ、認め合うことに繋がるのではないのでしょうか。

赤湯公民館長を兼務していますから、地域の方から「高校生が自転車の二人乗りをして危ないよね。」という情報がよせられます。見かけたとき、注意してあげればいいのではないかと返答するのですが、地域の方々はなかなか高校生に声をかけられないそうです。注意し、逆切れされて被害に遭ったというような全国ニュースを聞いているから、仕方ないのかもしれませんが。県内の高校生には、もっと大人の注意が聞ける、素直な心を持ってほしいと思います。

今日発表していただいた3校の取組みは、11月15日のまっすぐミーティングで披露していきたいと思っております。今日は本当にありがとうございました。(拍手)

## 《各助言者のコメントを踏まえ、県民（大人・子ども）に期待すること》

**大 隅** それでは今までの議論を踏まえまして、助言者のお二人に、大人、子どもも含めまして、県民全体へのメッセージをお願いしたいと思います。それでは、渡部先生からお願いします。

**渡 部** 高校生の皆さん、それから、県民会議、またご参会の皆さんの貴重なご意見を聞かせてもらいまして本当にありがとうございました。

これは高校生の皆さんも、また地域の皆さんもそうなんですが、どんなに世界が広くても「私の居場所はここだ!」という居場所しか人間には無いのです。もしいじめによって、高校生が学校の



中でこの教室に居場所が無くなる、地域に居場所が無くなるということは、この子どもたちにとっては世界を失うことです。世界を失った人間は、生きるすべがないのです。まず、そのことを私たちはしっかりと考える必要があると思いました。

「いじめ」ということを国語辞典で開くと漢字が2つ出て来ます。「つらく当たる」という漢字と、「おとしめて虐待する」という2つです。どちらも他人に対して精神的、また肉体的にいたぶることなのです。つまり、その人間にとっては、これからの教育を受ける権利、そして、これから未来があるであろう成長、そういった人間の生命と身体に重大な危機を生じさせる理不尽な犯罪行為、これがいじめであります。まずそのことを、その人間の基本的人権の侵害であるということ、私はきちっと受け止めて行く必要があるのではないかと思います。

ともすれば、先ほど会場の佐藤さんのご発言にもありました、「いじめた人間の指導がやっぱり中心だし、多くて大変なんだ。でもちょっと見方を変えなければいけないじゃないか」というご発言がありました。それは、反復されていくいじめ行為が、「いじめられている」、「俺がいじめられているんだ」という認識に至った時、初めていじめが認知されるという構造がこれまでありました。これは明らかにいじめる側の論理によって成り立っています。ともすれば、じゃあ、そうしたいじめた人間がなぜ、原因と分析は、などということがいろいろと言われます。原因と分析はもちろん大事ですが、今必要なのはいじめられている人間を即効性によって命を守らなければならないということでもあります。

そういう点から言えば、いじめた人間からいろんなことを聞くと、大体、圧倒的にいじめた理由に出てくる言葉というのは、2つしか無いんです。「俺のいうことを聞かないから」、「気に入らないから」この2つなんです。この2つはいじめる正当な根拠に成り得ないものです。もし仮にいじめられた生徒や児童が、たとえ行動や性格で欠点があったとしても、欠点に過ぎません。修正が可能なことです。いじめの行為や暴力が、その欠点によって許されるというのは、明らかにいじめる側の論理であって、私たち法治国家、民主主義国家の法と教育の下ではありえない論理であるということ、私たちは子どもたちと一緒に、生徒と一緒に、そして私たち大人社会も一緒になって、このことを共通の理解にして、これからの「運動」というものを手を携えて進めて行く必要があるのではないかということを感じました。

**大 隅** それでは金澤先生お願いいたします。

**金 澤** 今日は本当に、高校生の皆さんありがとうございました。

このような、「コラボ」と言いますか、県民大会の席上で高校生が生で私たちの方に伝えて頂くというのは初めてでしたので、きっとここに出てこられた高校生の皆さんの陰には校長先生のご協力や、置賜地区の校長会の皆様のご協力やご指導もあったことと思います。初めての試みなので、この素晴らしい皆さんの意見を大事にしたいと私は第一に思いました。

県民会議でも、ずっと前から続けている、「大人が変われば子どもも変わる」という県民運動と、昨年来“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動ということでやっております。一方、「家庭の日」という取組みで、第3日曜日の親子の対話の日とか、そういったものも随分前から定められております。しかし、なぜかだんだん意識が薄れてきて、そこに何も予定がないからと言って会議がどんどん入ってきたり、行事が入ったりするような状況がみられます。でも、やはり親子の会話や、大人の気づきをするには触れ合う時間ももうけないと、ただ忙しく過ぎていくことになってしまっただけ目だなと感じております。

子どもの成長には、周りの大人が20人くらい愛の目で子どもたちを見ないと、良い、立派な大人になれないというお話も聞いたことがございます。そうしますと、私たちは、今周りに人間が大変



少なくなっていますから、ご自分の子どもや孫にはたして20人の愛を注いでいる大人がいるだろうかと考えますと、平均して10数人ぐらいしかいないというお話もありました。私たちは活動の中で、今皆さんから出された大人へのメッセージの中に、県民会議では、挨拶と見守り運動、それからモラル、マナーの向上、これは大人が子どもの手本になろうということ、加えて子どもを事故とか犯罪から守る安全を地域全体で守ろうということで、3つの柱を立てて活動していますが、この活動を続けながら、さらに地域で特別に問題になっているもの、特に力を入れたいものについて、これからは是非、三者一体で頑張っていきたいと、改めて思いました。

今日、高校生の皆さんから本当に新鮮な真摯なお話をお聞きして、そしてまた会場の皆様からもご意見をいただいて、自分自身、心を引き締めようと改めて思ったところでございます。

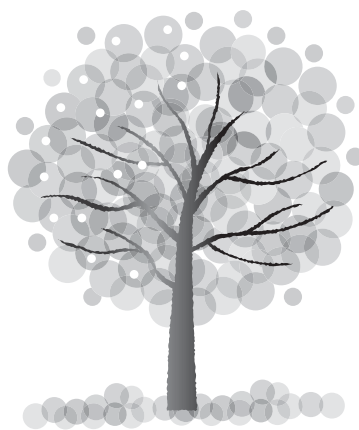
## 大 隅

お二人の先生にまとめていただきましたけれども、最後に私もコーディネーターとして感想を述べさせていただきますと思います。

いじめの問題というのは昔からあったことですが、こんなふうに学校ぐるみで、あるいは、地域と一緒に、いじめについて語り合うということは、なかったんじゃないかと思います。青少年育成県民会議の皆さんは、我々学校関係者にとってはサポーターであると常日頃から感じておりましたけれども、その皆様とこうやって、高校生の意見を聞いていただいて、交流ができたということは、まず何よりも良かったなと感じております。

やはりいじめをめぐる状況があって、ともすると、我々学校関係者も過敏になりがちなんですが、このように生徒たちはこの問題についてきちっと取り組んで活動しております。この活動を地域の皆様と手を携えた運動に繋げていくことができれば、いじめのない社会を作っていくのではないかと、確信したところでございます。

つたない司会でございましたけれども、皆様にはご協力いただきまして誠にありがとうございました。(拍手)



## Ⅱ いじめ防止スローガン

---

## いじめ防止スローガン

平成26年度、県内の各高等学校においては、いじめ・非行の防止、根絶を図るため、生徒会等が主体となって学校単位で自主的に取り組むテーマを自らが設定し、スローガンを作成することになりました。作成したスローガンを学校全体で共有し、そのテーマの実現に向けた様々な取り組みを行なうことにより、いじめ・非行の防止、根絶に寄与することを目指します。

以下に、各校のスローガンを紹介します

### 1 公立高等学校

#### (1) 県立山形東高等学校生徒会

スローガン 『**見えないところを見る力**』

パソコンやスマホが普及した現在、いじめ等は、普段はなかなか見えないところで起こっていることが多くなってきているのではないかと考えました。そこで、見えないところで苦しんでいる人々に目を向けることができるということが、いじめをなくすことに繋がると思い、このスローガンを制定しました。

全校集会時に、このスローガンを発表し、呼びかけを行いました。

#### (2) 県立山形南高等学校生徒会

スローガン 『**差しだそう 友を助ける 勇気の手**』

5月28日に行われた生徒総会に於いて、執行部より趣旨説明がなされ、「友を大切にする自分を大切に」のテーマで全校生徒を対象に募集を呼びかけた。

今年度の生徒会活動方針の中に「いじめのない、非行のない学校環境作り」を掲げ、執行部のみならず各クラスで互いに支え合う姿勢を構築することが、確認された。

#### (3) 県立山形西高等学校校友会

スローガン 『**Westthoughtful ～瞬を大切に～**』

いじめアンケートの結果、本校でもいじめにつながりかねない事柄がいくつかありました。

今回のスローガンは、西高（West）と思いやり（thoughtful）を合わせた造語です。「いじめ」という語句は使用せず、私たち一人ひとりが相手を思いやり、瞬（いま）こうして高校で出会った仲間との関係を自分で考えるという意味で決定しました。

今後、2学期の始業式で校友会から全校生へ呼びかけを行い、「いじめゼロ」を目指して行きます。

#### (4) 県立山形北高等学校生徒会

スローガン 『**Tease ～その言葉、本当に人を傷つけていませんか？～**』

私たちは、いじめ問題について北高全体として関心を持ち活動していきたいと考え、全校生にスローガンを募集しました。「いじめ」という言葉を表面に出すことなく、英単語の「Tease」にすることで、見る人

がどんな意味なのか関心を持ってくれることを期待しました。また、これまでの行い、これからの行いについて考えるきっかけになってほしいという願いを込め、問いかけの副題にしました。

## (5) 県立山形工業高等学校生徒会

スローガン 『止めるべき“仲間”がいます 救うべき“仲間”がいます  
助けられる“貴方”がいます』

平成26年度生徒会活動の重点目標に「山工いじめ撲滅プロジェクト」始動を掲げ5月の生徒総会において、全校生徒一丸となり、校内からいじめを撲滅することを決定した。その最初の取り組みとして、このプロジェクトのスローガンを全校生徒から募り、生徒会中心に優秀作品を選定し、優秀作品を学校のスローガンと制定した。今後はこのスローガンを元に啓発ポスター原画を全校生徒から募り、優秀作品を校内及び他校へと掲示依頼し、山工いじめ撲滅プロジェクトの周知を徹底させ、山工生全員でいじめを撲滅するための全校生徒参加型のプロジェクトとして活動していく予定である。

## (6) 県立山形中央高等学校生徒会

スローガン 『いじめ根絶宣言  
いやなこと されていやなら しないこと』

生徒会執行部に中学時代にいじめを経験した者がおり、その体験に基づいた言葉がこれである。簡単ではあるが説得力ある言葉に、多くの生徒が共感し採用となった。

今後、2学期からこのスローガンを広く校内に広報し、当事者意識を醸成し、いじめ・非行の防止に努めていく。

## (7) 県立霞城学園高等学校ⅠⅡⅢ部生徒会

スローガン 『悪ふざけ 軽い気持ちで 未来を失う』

いじめを最初にやってしまうのは、軽い気持ちでふざけてやっている人が多いです。しかし、そのような軽率な行動は相手を傷つけ、やがて大きな報いとなって自分に返ってきて未来を失うこととなります。このスローガンの決定に際し、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ部の各生徒会合同で意見を出し合いました。今後、学校全体でスローガンを掲げ、ポスター掲示、SHRや校内での呼びかけを行っていきます。

## (8) 県立上山明新館高等学校生徒会

スローガン 『NO いじめ HAPPYLIFE』

このスローガンは、いじめが無くなることでどのように生活が変わるかということを考えて決定しました。いじめが無くなる事で幸せになる人は沢山いると思うので、今後私達の学校でもいじめが無くなるように、周りの人に声をかけたり気づかっていったりしてすがすがしい学校生活を送りたいと思います。



## (9) 県立天童高等学校生徒会

スローガン 『**見て見ぬふりはいじめじゃないのか？踏み出せ一步、出せ勇気**』

自分がいじめの標的になったらどうしようと見て見ぬふりをするのはいじめと同じことではないかと考える。踏み出せ一步、出せ勇気という自分の心との葛藤に打ち勝って欲しいという願いを込めた。今後この標語を学校内に広めていき、これからいじめの防止活動を行い、いじめは絶対にしてはいけないと再確認してほしい。

## (10) 県立山辺高等学校生徒会

スローガン 『**大丈夫？ その一言が笑顔を増やす**』

各クラスで「いじめ」について話し合いをもち、スローガンを多数出して貰った。その後、生徒会執行部とHR委員で話し合いを持ち4つのスローガンを選んだ。4案を生徒総会で協議し、決定した。

このスローガンには、知らない振りをせず関わることで笑顔に繋がりたいという願いが込められている。

## (11) 県立寒河江高等学校生徒会

スローガン 『**We never ever give in to evil.**  
**(悪には絶対屈しない) (いじめは絶対許さない)**』

昨年度末に実施した「いじめアンケート調査」で、本校でもいじめがあると認識し、危機感を持った生徒会が、執行部で話し合いをもち、このスローガンを生徒総会に提案、可決承認された。今後は、ポスター掲示や呼びかけ運動を通し、啓蒙を図っていく。

## (12) 県立寒河江高等学校果樹園芸科生徒会

スローガン 『**17名の思いを一つに ～お互いの気持ちを尊重し合おう～**』

全校生徒17名という少人数ならではの利点を活かし、この17名が「いじめは絶対にあってはならない」という強い気持ちを共有していくという意味を込めて、このスローガンを執行部が提案し、生徒総会で可決されました。今後の活動としては、ポスターの作成、学期末ごとに行われる本校独自の「寒農サミット」(討論会)を通して、いじめや非行についての意見交換をしていきたいと考えています。

## (13) 県立寒河江工業高等学校生徒会

スローガン 『**他人も自分も きずつけず 未来を見すえて 行動しよう**』

いじめは他人を傷つけ、自分自身の未来をも傷つけてしまう。

他人はもちろん、自分も傷つくような行動をせずに、未来を見すえた行動ができればよいと思う。

## (14) 県立谷地高等学校生徒会

スローガン 『**おふざけも 一線越えたら いじめ道**』

加害者側が「いじめ」とは認識しないような些細な言動も被害者側にとっては心に大きな傷を残すことが

往々にある。さらには、「これくらいはいいだろう」と思ってやっていることが次第にエスカレートし、取り返しのつかないいじめに発展することもある。本校では、ふざけ半分でやっていることでも、相手に不快な思いを与えれば、それはいじめである、という認識を生徒に周知するため、上記のスローガンを採用し、生徒会、特に風紀委員会を中心として啓発活動に努めていきたい。

## (15) 県立左沢高等学校評議委員会

スローガン 『Start友達 Stopいじめ

～見つけよう相手の長所とやさしさを～』

全校生徒に、いじめ防止に向けたアンケートを行い、いじめのない学校にするためにどんなことができるかということを一一人に考えてもらった。その結果、みんながみんなの良い所を探したり、相手を思いやる心を大切に、友達の輪をクラスから学校全体に広げていこうということになった。

スローガンのアイデアも全校生徒から募集し、各クラスごとに候補を絞り、最終アンケートの結果、上記のものとなった。

## (16) 県立楯岡高等学校生徒会

スローガン 『創快』

高校生活の中で、お互いに快い環境・関係を生徒達自身の手で作上げる、という考えをスローガンに託した。昨年度からの生徒会執行委員会のスローガンであったが、5月の生徒総会で再確認し、お互いの気持ちを理解しようとする事、その結果としていじめを絶対に許さないという雰囲気の醸成に努めることにした。スローガンの書いてある「のぼり」を作成し、挨拶運動の際に登校する生徒に呼び掛けている。



## (17) 県立村山産業高等学校生徒会

スローガン 『私たちは小さなサインを見逃さない いじめゼロの学校！』

昨年度ポスターを制作させて頂いた、石山・結城の2名が考えました。いつまでも、いつの時代も無くならない“いじめ”。いつの日かそれをゼロにしたいという思いで活動していきます。

## (18) 県立北村山高等学校生徒会

スローガン 『「考動」 ～守りたい みんなの笑顔～』

いじめが起こる基本的な原因を生徒会で話し合ったとき、「悪口」、「無視」、「嫌がらせ」が主なものとして挙げられた。特に悪口に関しては、最も身近な事柄と考えられ、相手の気持ちを考え行動することの大切さを伝えたかった。

最後の笑顔というフレーズは、スローガンとしていじめを防止するというマイナスイメージより、いじめをしないことでみんなにどのような未来が広がるか、プラスのイメージで終わりたいと考え作成した。

## (19) 県立新庄北高等学校生徒会

スローガン 『いじめを許さない・見逃さない』

今年度前期の生徒総会の議案書が完成し、クラスごとの審議も終了した後に、このスローガンの作成依頼があった。そのため、文章表現については充分検討する時間がなかったが、「いじめを許さない・見逃さない」という共通認識を確認し、今後の活動を展開することとした。1学期、いじめ問題は発生しなかったが、今後も生徒会を中心にいじめの未然防止に努めていきたい。

## (20) 県立新庄北高等学校定時制生徒会

スローガン 『思いあい かかわりあい 支えあい 対話でつながる 新北定』

4月から生徒同士が学校生活の中で、思い、かかわり、支えあい学校行事をつくりあげてきました。これからも、対話により新庄北定時制をよりよいものにしたいとの願いを込めて、このスローガンにしました。

## (21) 県立新庄北高等学校最上校生徒会

スローガン 『何をするの？ いじめがダメだと 分かっているのに』

いじめはダメだと分かっているのにやっている人はたくさんいると思うので、このスローガンにしました。自覚があってしているということは、心がければ直せることだと思うので、今後の生徒会では、繰り返し呼びかけていこうと思います。

## (22) 県立新庄南高等学校生徒会

スローガン 『いじめなし 笑顔あふれる 新庄南』

現在、学校でのいじめが大きな問題になっています。本校では、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう、生徒会が中心となって様々な取り組みをしています。特に力を入れているのはあいさつ運動です。笑顔でするあいさつはコミュニケーションの基本なので、これからも力を入れていきたいと思っています。



## (23) 県立新庄南高等学校金山校生徒会

スローガン 『他を思う その優しさが 個を救う』

当校は町内唯一の中学校からの進学者が圧倒的多数を占めるが、他校からの進学者も快く受け入れ、打ちとけやすい雰囲気を作ってきた。その校風を引き継ぎ、いじめとは無縁の学校を構築することを目的に、生徒会執行部及び風紀委員会が中心となって文言を作成し、生徒会集会での呼びかけや、ポスターを作成、掲示することでいじめの未然防止を図っている。

## (24) 県立新庄神室産業高等学校生徒会

スローガン 『**広げよう笑顔あふれる絆の和**』

いじめや非行をなくすためには、学校全体の雰囲気をよくしなくてはなりません。そのためにまず笑顔で楽しい学校生活が必要と考えます。次に絆についてです。人と人とのつながりがあれば、全体がまとまり大きな輪になります。笑顔があれば、自然と絆が深まっていくと思います。

今後の活動としては、行事や企画を通して呼びかけを行い、これらの考えを広く深めていくようにしたいです。

## (25) 県立真室川高等学校生徒会

スローガン 『**「地域を愛し 地域に生きる」真高に いじめは似合わない**』

高校生活3年間をよい社会人になるための訓練期間と定め、主体的にキャリア教育に取り組んでいる真高。生徒会では「地域を愛し、地域に生きる」をメインスローガンに掲げ、年3回の全校ボランティアや花いっぱい運動、真室川祭り踊りパレードへの全員参加を続けています。また、校外でのあいさつ運動にも毎日全校挙げて取り組んでいます。

そんな真高に「いじめ」は全く似合いません。

「いじめ」がある学校は地域を愛したり、地域に生きたりできません。真高生全員でいじめの撲滅を誓い合いましょう。

## (26) 県立米沢興譲館高等学校生徒自治会

スローガン 『**いじめは しない させない 見逃さない!**

～興譲の精神～』

生徒自治会執行部が学校いじめ防止基本方針を受け、4月議案書の第3号議案として作成し、各クラスの議案書審議、代議員会で可決した。

本校の『興譲の精神』をもとにして、いじめに対する興譲館生としての態度を表すスローガンとして最もシンプルでわかりやすいものとして作成した。

## (27) 県立米沢東高等学校生徒会

スローガン 『**いじめ<sup>ゼロ</sup> 作りたいたいの笑顔100**』

全校生徒からスローガンを募集（6月末）。4点選考し、全校投票（7月中旬）の結果、上記に決定。生徒玄関と各クラスに掲示。8月末の文化祭終了後に評議員会を開催し、学校・学年・クラス単位で具体的な対応策をグループワークで話し合い、全校生徒に還元できる方策を模索していく予定。文化祭もHonor（アナー：尊敬）というテーマでお互いの良さを認め合う中から新たな価値観を作り出す雰囲気を醸成したいと考えている。

## (28) 県立米沢工業高等学校全日制生徒会

スローガン 『**いじめと決めるのは あなたじゃない**』

このスローガンは全校生からひとり一遍ずつ書いてもらい、その中から選出しました。



自分では冗談のつもりで言った言葉や何気ない行動が人を傷つける場合もある事を意識してほしいと思い、このスローガンにしました。

## (29) 県立米沢工業高等学校定時制生徒会

スローガン 『あなたの一言で「失う命」「救われる命」  
たかが一言、されど一言 救う一言で相手を思いやろう』

スローガン募集のアンケートを全校生徒対象に実施した結果、生徒達からの回答として、「言葉」、「一言」、「命」といった単語が使われたフレーズが多く目立った。気になるフレーズを抜粋し生徒会役員で話し合いを持った結果、上記スローガンに決定された。

## (30) 県立米沢商業高等学校生徒会

スローガン 『いじめ、ダメ、絶対』

生徒会執行部が集まり議論し、決定した。議論の中でいじめは人の高校生活そして人生を狂わせることもある重大なもの、決して軽いものではなく許されないものだという意見が出た。それで「ダメ、絶対」という言葉を取り入れた。7月2日の全校集会で発表し、相手の気持ちを推し量ることやSNSの適切な利用を訴え、ひとりひとりの自覚を促した。今後校内掲示物を作成する予定である。

## (31) 県立置賜農業高等学校生徒会

スローガン 『個性があってあたりまえ  
とめようよ とめれば増える 笑顔の花』

いじめが起こる背景や場所、自分が目にしたらどのように行動するか、行動すべきか、全校生にアンケートをとりました。その中で、今回のスローガンについても意見が出され、生徒会執行部で議論、決定しました。

今後、生徒会会報「農 Limit 農 Life」にて、全校生に結果の報告を行い、生徒会執行部が主となって啓発活動に取り組んでいく予定です。

## (32) 県立南陽高等学校生徒会

スローガン 『聞こえますか？ 心の叫び』  
『見直そう 相手に対するその言動』  
『いじめを止める小さな勇気』

生徒会執行部25人で第1回目の会議を開く。生徒会担当教員から山形県のいじめの現状を説明。次回まで自分の経験や周囲の状況を考慮して、原案を持ち寄ることにした。第2回目の会議で生徒が自分の意見を発表しながら、どういった取り組み、スローガンを設定するか検討し、上記の3つまで絞った。8月に開催する学校祭までには取り組みも含めて決定していく予定。

### (33) 県立高畠高等学校生徒会

スローガン 『改進 ～Smile Changes All～』

このスローガンは、常に自分を見つめ、日々成長しながら進んでいきたいといった生徒の思いから決議されたものである。「改進」は、互いに切磋琢磨しあい、一人一人が一歩ずつ前へ進んでいくことを指し、「Smile Changes All」は、笑顔で僕らは変わるという意味である。普段の生活や学校行事において、互いを認める感覚を土台にし、良好なコミュニケーションをとれる集団を目指す。

活動内容は、HR委員会・部活動委員会から、各クラス・各部において集団作りのスローガンと行動目標を決定することを発信し、それを各団体で話し合い、実践することとなった。

### (34) 県立長井高等学校生徒会

スローガン 『温厚篤実』

多様な価値観を認め合うために、自分とは違う考え方を受け入れ、共に生きる方法をいかに身につけていくか、そしてそれを実現するための人間関係をどのように構築するかという観点で作成した。人を思いやる温かい気持ちが生活の根底にあれば、その行為もおのずと善悪をきちんと見極めた、望ましいものになっていくはずだという願いを込めて、わかりやすい四字熟語をあえて選んだ。

### (35) 県立長井工業高等学校生徒会

スローガン ①『無くそうイジメ 増やそう仲間!!』  
②『いじめをなくし 一人ひとりが思いやりのある心を持とう』

各クラス代表による代議員会において生徒会長が趣旨説明をし、各クラスで作成したものを持ち寄り、代議員による投票の結果、上記2作品が同数最上位となった。

①はいじめを無くすだけでなく仲間も増やしていこうという思いをこめたものである。②はみんながいじめをなくそうと努力し、誰もが楽しく明るい生活になるよう願っている。

8月下旬に結果を校内に発表、掲示し、いじめ防止の意識高揚を図る予定である。

### (36) 県立荒砥高等学校生徒会

スローガン 『「自分には関係ない…」 <sup>それ</sup>傍観者でいいんですか?』

今年度の生徒総会での「いじめのない学校をつくろう」という生徒会長からの呼びかけを受け、全生徒が自分たちの思いを込めて考えたスローガンの中から選ばれたものである。本校では、生徒一人ひとりが主役であり、かけがえのない存在であるとともに、かけがえのない仲間を思いやる気持ちも大切にしている。「いじめ」を見て見ぬふりをする行為に対し、「それでいいの」と問いかけ、生徒自身の意識を高めることにより、いじめのない学校を目指したいと考えている。

### (37) 県立小国高等学校生徒会

スローガン 『広げよう 心の視野 止めよう 負の連鎖』

4月 生徒会総会において生徒会長からの呼びかけ

5月 生徒会執行部での話し合い

6月 「お互いを認め合う人間関係を築くにはどうすればよいか」という質問と共にスローガンを全校生徒に募集する。互いの長所だけでなく短所をも認め合おうという意味を込めて上記のように決定。  
7月～ スローガンの掲示及び生徒による話し合いの予定。

### (38) 県立鶴岡南高等学校生徒会

スローガン 『僕が気付く。僕らで守る。』

生徒のいじめ・非行を防止するには、大人の力を借りるよりも先に、生徒ら自身が自分たちで気づき、行動を起こすことが重要になります。一人の優しさ・勇気を生徒全員が共有できるような環境を育みたい。そんな思いを込めてこのスローガンを設定しました。今後はこのスローガンの元に生徒が互いに呼びかけ合えるような雰囲気づくりに努めていきたいです。

### (39) 県立鶴岡南高等学校通信制生徒会

スローガン 『それぞれの目標を達成するために助け合う  
「仲間」づくりをめざそう』

通信制というシステムの中で学び、生徒間の直接的な交流があまり多くない。その中でも、互いのあり方について理解しながら良好な人間関係を築くためにも、さまざまな生徒会行事を通して「仲間」を作り、より有意義な学校生活が送れるような環境作りをめざそう、というもの。

【平成26年度 前期生徒総会で活動目標の1として設定】

### (40) 県立鶴岡南高等学校山添校生徒会

スローガン 『いじめ絶対にダメ ～「幸せです」と言える環境作り～』

シンプルでわかりやすいスローガンで、4月から生徒会として活動をしてきた。今回この機会に全校にサブタイトルを募集しこのように決定した。ポスター・放送による呼びかけ、いじめアンケートによる確認で、全校生徒が「幸せです」と胸を張って言える環境・雰囲気作りを進めて行く。

### (41) 県立鶴岡北高等学校生徒会

スローガン 『やめれっちゃ 見ぬふりすんなも いじめだろ』

私たちが学校生活を送る上で、いじめを身近に感じることは少ないですが、もしそのような場面に出会ったときに見て見ぬふりをするのがないように、このスローガンを考えました。

方言なのは印象に残りやすいようにです。

### (42) 県立鶴岡工業高等学校全日制生徒会

スローガン 『アナタのその行為 誰の為ですか』

全校生徒にスローガン募集を呼びかけ、一人一文でアンケートを取った。クラス常任委員が各クラス二文を選出し、全クラス分を生徒会理事会で投票し、最優秀作品を決定した。



いけない行為を起こす前に、このスローガン「アナタのその行為 誰の為ですか」を自分に問い考え、自己抑制する気持ちを育みたい。また、相手に対する注意のことばとして、互いに言い合える環境ができることで、いじめや非行がなくなる学校にしていきたい。

#### (43) 県立鶴岡工業高等学校定時制生徒会

スローガン 『<sup>い</sup>・<sup>じ</sup>・<sup>め</sup> I・Z・M STOP! ～“いじめ”と“いじり”は紙一重～』

何気なくふざけあっていた友人が、実はそれを嫌がっていたという事例は少なくない。このようなケースは誰もがその当事者になりえることを示す。

そこで、この事例に着目し、常に自分がしていることは“いじめ”につながっているのではないかという振り返りを全校生徒に促そうと、上記のスローガンを作成した。今後は、ポスター掲示と放送による呼び掛けなどを行いながら、いじめ防止の啓発活動に取り組む計画である。

#### (44) 県立鶴岡中央高等学校生徒会

スローガン 『**真心で 無くそう いじめ 増やそう 笑顔**』

本校生徒会では、昨年度から「真心プロジェクト」に取り組んでおり、その中に「明るい挨拶」という目標を掲げている。それを受け、いじめのない学校生活を目指しスローガンとした。

#### (45) 県立加茂水産高等学校生徒会

スローガン 『**いじめとは 無縁のはずだ シーマンシップ**』

シーマンシップとは、以下のようなことである。

1. 先見性…起こりうる事態や状況を予測してそのことに対処する能力、集中力
2. 確実性…海上での行動の確実性の欠如は事故の要因となる
3. 迅速性…制約された環境の中で、速やかに効率よく行動する
4. 節度…礼儀正しさ、対人に対する思いやり
5. 質実剛健…厳しい環境対応のため、日頃から簡素な生活と強健な体力を保持
6. 冒険心…実行力・勇気・忍耐力

#### (46) 県立庄内農業高等学校生徒会

スローガン 『**ダメ、いじめ ～育てよう思いやりの心～**』

誰にでもすぐにわかるような、インパクトのあるスローガンがよいと考え、このスローガンを制定しました。

いじめは、お互いの立場や気持ちを思いやる気持ちが欠けることから起こると考えられるので、思いやりの大切さを訴えるようなサブスローガンを付けました。

##### ①アンケートと意見箱の活用

いじめをしている人や、されている人がいないかを、後期の生徒会の活動として予定している定期的なアンケートや、以前から設置している意見箱を活用することで、情報収集します。

##### ②日常的な活動の中でのいじめ防止

本校は日常的に実習があります。また、行事も多く、生徒同士で活動する機会がたくさんあります。実



習などではお互いに助け合わなければ作業ができません。また、各行事でもクラスなどの団結が不可欠です。このような点を生かし、活動する中で、全学年が仲良くなり、いじめ防止につなげていきたいと思えます。

#### (47) 県立庄内総合高等学校生徒会

スローガン 『No More いじめ ～認め愛 支え愛 励まし愛～』

全校生徒を対象にアンケートを取り、スローガンを募集した。決定的なものはないが、数ある候補を参考にし、生徒会執行部が考え、このスローガンとした。全校生徒が覚えやすいものであり、いじめを自分たちが起こさない、許さない、今まで経験のある人たちもそれを繰り返さないという意味が込められている。

#### (48) 県立酒田東高等学校生徒会

スローガン 『目をつぶる前に、手をさしのべて』

各クラスの学級委員や各部部长、各委員会の委員長による中央委員会でキーワードを挙げてもらい、生徒会執行部でスローガンを決定しました。特に、「いじめを見逃さない」という意味で「目をつぶる前に」という言葉を使うこととしました。いじめや非行が大きな問題となる前に、この酒田東高校でも問題が起きたら見逃さない姿勢で活動して行きます。具体的には生徒会便りやポスターを通じて全校生徒に呼びかけて行こうと考えています。

#### (49) 県立酒田西高等学校全日制生徒会

スローガン 『善いごどはしろ 悪<sup>わ</sup>いごどはすんな』  
『きみの泣き顔は見たくない』

全校生徒にスローガン作成をお願いし、クラスから1点選出し、生徒総会で全15点を発表した。ホールに15点のスローガンを貼り出し、さらに全校生徒に投票で1点選出してもらい選んだ。全校生徒が「いじめ・非行」について関心を高める機会になった。また、生徒会行事に盛り込んで、執行部の士気も高めることができた。選ばれた2作品は、今後教室掲示用に加工予定。



#### (50) 県立酒田西高等学校定時制生徒会

スローガン 『認めよう たがいの心と個性と行動を』

LHRにてスローガン作成の趣旨を説明し、一人一つスローガンの作成を行った。各年次から提出された複数の案を全校生徒に提示し、前期生徒総会にて全校生徒の投票により学校全体のスローガンを決定した。本校は多様な個性を持つ生徒が多く、本校の特性に合ったスローガンである。生徒会の活動としてポスター作成・校内掲示により啓発活動を行う。

## (51) 県立酒田光陵高等学校生徒会

スローガン 『ケジメがあれば イジメはない

いのちがあれば ひとりじゃない』

校内全クラスよりいじめ・非行防止、根絶というテーマに沿った言葉を出し合い、話し合ってもらいました。その後複数の候補の中より生徒会執行部で決定いたしました。人としてのケジメがしっかりしていないからイジメが起き、命ある限り、あなたはひとりじゃない。家族や友達がいるよ。という意味が込められています。今後は集会などでもスローガンを確認し、全校生徒に呼びかけなどを行って、いじめ・非行“0”を目指します。

## (52) 県立遊佐高等学校生徒会

スローガン 『NO いじめ!!! しない させない 見逃さない

～遊佐高生の決意～』

生徒会執行部でいじめ防止に向けたスローガン（案）を作成した。今後は生徒総会で全校生徒に提案し、周知する。

## (53) 山形市立商業高等学校生徒会

スローガン 『広げよう思いやりの輪と輸誠の輪』

いじめや非行をなくすには、何よりも一人一人が相手を思いやる心が大切になると思います。また、その思いやる心の輪と本校の校訓である輸誠の輪が合わされば更に絆が深まり、本校では、いじめや非行がない明るく充実した山商らしい学校生活を一人一人が送れると信じています。今後については、2学期より生徒会役員を中心に校内掲示をし、全校生徒に周知させる具体的な動きを取っていきます。



## 2 私立高等学校

### (1) 学校法人富澤学園 山形城北高等学校生徒会

スローガン 『辛+1=幸 強い心と勇気の結晶』

生徒会活動のスローガン「oneself～繋がる城北」を実践するべく、生徒同士の繋がりを密にし、お互いにコミュニケーションを図るため、積極的なあいさつ運動ならびに声掛けを進めていく。また、生徒総会において「いじめ撲滅宣言」を採択した。

### (2) 学校法人山形学院 山形学院高等学校生徒会

スローガン 『あなたの心の声、聞かせてください』

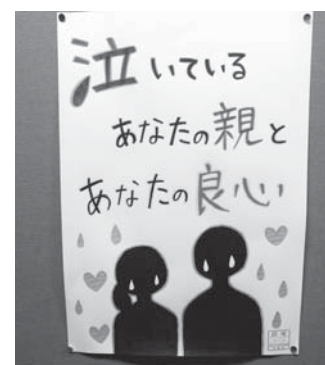
校内に意見箱を設置し、生徒会が中心となり運営していますが毎月30通ほどの意見や考えなどが寄せられます。時には学校生活で悩んでいること、私生活で困っていること、その他、様々な意見が寄せられます。生徒会役員が中心となり先生方のアドバイスを受けて回答する事によって、いじめ、非行を未然に防ぎ、学院生同士で心の声を相談し解決を図っています。



### (3) 学校法人日本大学 日本大学山形高等学校生徒会

スローガン 『泣いている あなたの親と あなたの良心』

理由はいじめ・非行共通のスローガンとして相応しいと判断した為。いじめ・非行を無くすにはどうすればよいかを生徒一人ひとりに考えてもらう為に、全校生一人ひとりにスローガンを書いてもらい、その中から最優秀作品1点、優秀作品2点、佳作6点を教員・生徒会役員により選び、各クラスに掲示すると共に、最優秀作品を本校スローガンに制定。また、今後はスローガンを記載したポスターを掲示し、発信していく予定。



### (4) 学校法人明正学園 山形明正高等学校生徒会

スローガン 『「明正人たれ」

～正しい行いができる、人のために行動できる人に～』

前期生徒総会の生徒会方針のスローガンに「基本的にいじめや非行をしない」思いを掲げています。

人間は正しい行いをする事によって心にゆとりが生まれます。また、それは他人を思いやる気持ちにもつながります。そして、人のために行動できる人間を目指します。取り組みとして、「基本的な常識・マナーの向上、あいさつ運動」や、「答えるんデスQ&A」(目安箱のようなもの)を設置し、生徒の意見や悩みを吸い上げ、生徒会執行部がそれに答えています。



## (5) 学校法人山形電波学園 山形電波工業高等学校生徒会

スローガン 『手を取りあい、みんなで作ろう笑顔の輪』

生徒全員が笑顔で学校に登校できるような環境をつくりたいという願いを込めて、このスローガンに決定しました。

生徒会と生徒で一丸となり、今後は学校全体で本校の歴史を更に築いていけたらと考えています。

## (6) 学校法人山本学園 山本学園高等学校生徒会

スローガン 『NOT BULLYING』

BULLYINGには「いじめ」という意味があります。「いじめをなくす。」という意味を込めて、否定の「NOT」をつけ「NOT BULLYING」にしました。

「いじめ0（ゼロ）」と一口に言ってもすぐに実現するのは難しいと思いますが、「きっかけ」はすぐに作ることができます。お互いに理解し認識することで変われることがあると思います。その積み重ねで「いじめ0」…「いじめのない環境」＝「NOT BULLYING」の実現を目指していきたいと思います。

## (7) 学校法人東海山形学園 東海大学山形高等学校生徒会

スローガン 『仁 ～若き日に汝の仁徳を養え～』

本校の建学の精神（4つ）にもとづき、生徒会スローガンとしてそこに新たに1つ加えることで本校生としての自覚を促したいと考えた。

「人間関係」や「協力」等の意味を持つ『仁』という字から、常に人とのつながりを大切にし、お互いを思いやれる人間になろうという意識をもって学校生活を送りたいということから決定した。



## (8) 学校法人新庄学園 新庄東高等学校生徒会

スローガン 『い たいのは  
じ ぶんの心  
め に見えない心の傷』

一番つらいのは、いじめを受けた人。そんな思いをさせたくないし、相手の気持ちを考えた言動を全校生徒にしてもらいたい。

そして、いじめを受けた人だけでなく、いじめた本人も、目には見えない傷を自分の心に負うと思うのでこのスローガンを制定しました。

今後、生徒総会等を通じて全校生徒に伝えていきたい。



## (9) 学校法人九里学園 九里学園高等学校生徒会

スローガン 『もうやめよう 見て見ぬふりと 傍観者  
先生も 生徒の変化に 敏感に』

必ず誰か（生徒）は見ています。勇気をだして動く（止める、先生に報告する）べきです。

また、先生方も生徒のちょっとした異変・変化に気づくべきです。「学校として認識していませんでした」は逃げているだけの言い訳です。本当にいじめや非行の根絶を願うのであれば、信頼される教員集団にならなくてはならないと思います。

生徒も教員も信頼し合える集団を目指すことを目的として、このスローガンを作成しました。

## (10) 学校法人椎野学園 米沢中央高等学校生徒会

スローガン 『いじめ0で心の底から笑える学園』

サブタイトルとして「やめよう、いじめ、増やそう、仲間」となり、仲間を作ることの大切さが、生徒会の中でも大きな話題となりました。私立の高校として、一つの精神の下、家族のようにあたたかい、思いやりを持って行動し、交際できる人間関係作りを目標に、スローガンが決まりました。

## (11) 学校法人羽黒学園 羽黒高等学校生徒会

スローガン 『考えてる？ 気付いてる？ 相手の気持ち』

上記スローガンに伴い、いつも相手の気持ちを考えた言葉をかけたり、行動を心がけようという態度で、相手のイヤなことをしない 心に寄り添った言動をとろうといったサブスローガンも作成、活動していく。

## (12) 学校法人齋藤学園 鶴岡東高等学校生徒会

スローガン 『思いやりの種を蒔こう—754の笑顔咲き誇る明日のために』

思いやりとは相手の気持ちを考えること。生徒一人ひとりが「思いやり」を意識することで全校生徒754名の笑顔につながると信じて、今年度生徒会活動方針の1つに掲げ生徒総会で可決決定しました。他者を思いやる心はいじめに関わらず、社会で生きていく上で必要不可欠なものです。どんなことをしたら相手が喜ぶか、どんなことをされたら傷つくかを意識した生活を心がけていけるよう昇降口等にスローガンを掲示し、徹底を図ります。



## (13) 学校法人天真林昌学園 天真学園高等学校生徒会

スローガン 『考えよう、小さな言葉が愛言葉』

何気なく発した言葉で時に人は傷ついてしまいます。小さな言動が時にいじめに発展し、非行に走らせると思いました。そこで、一人ひとりが相手の事を尊重し、そのうえで自分がどのような言葉をかけるかをよく考えることが大切だと思いこのスローガンを考えました。そして、相手の事を考えた言葉が愛言葉となり人に届くことで、いじめや非行をなくしていけると考えます。

#### (14) 学校法人天真林昌学園 酒田南高等学校生徒会

スローガン 『あたたかさ、優しさがあふれる学校へ』

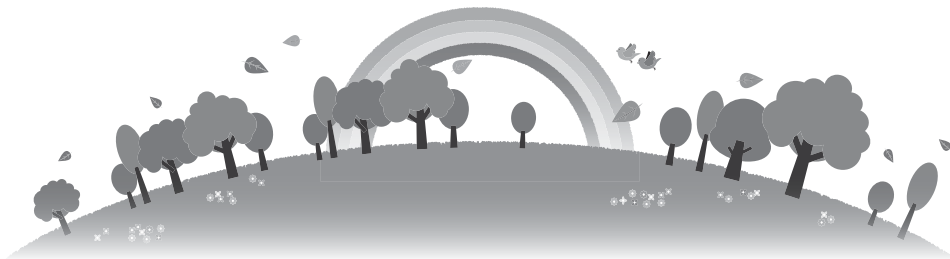
酒田南高校は浄土宗宗門の学校です。その教えを下に酒田南高校には「天下和順」（てんげわじゅん）という学校の教育目標があります。災いがなく、人々が仲良く暮らすことなどの意味があり、今一度その学校の教育目標を意識、柱として「いじめや非行がゼロの学校」にしていけるように、後期から生徒会中心に活動していく予定です。

#### (15) 学校法人天真林昌学園 和順館高等学校生徒会

スローガン 『……天下和順……

かけがえのないこの学校生活【とき】を、  
和やかに乱れることなく。』

さまざまな背景や状況を抱え、通信制高校に入学してくる生徒。その一人ひとりの学校生活に対する思いは非常に強い。その思いや理想を実現させるために、学校生活を安心して送れる環境整備が不可欠である。いじめや非行がなく誰もが安心して充実した学校生活を送れるようにこのスローガンを制定し、学校全体で取り組んでいく姿勢を様々な活動を通じて示していく。





# III 資料編

---



# 「いじめをなくそう高校生サミット」に係るアンケート集計結果報告書

山形県子育て推進部  
若者支援・男女共同参画課まとめ

調査目的：県民運動における新たな取組みとして開催された「いじめをなくそう高校生サミット」に関する評価や意見を把握し、「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動の今後の事業展開の参考とするため、アンケート調査を実施した。

調査対象：「いじめをなくそう高校生サミット」の聴衆450名（平成26年度山形県青少年健全育成県民大会の来場者）

調査日時：平成26年11月9日 南陽市民会館

調査方法：当日会場配布アンケートによる集計

回答者数：132人

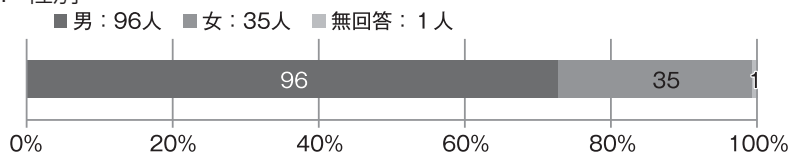
回答率：29.3%

その他：自由記述欄のとりまとめに際しては、寄せられた回答全てを「だ・である調」に統一した。また、文意が不明確なものについては、前後の文脈から推測し、趣旨が明確になるよう表現を修正した。

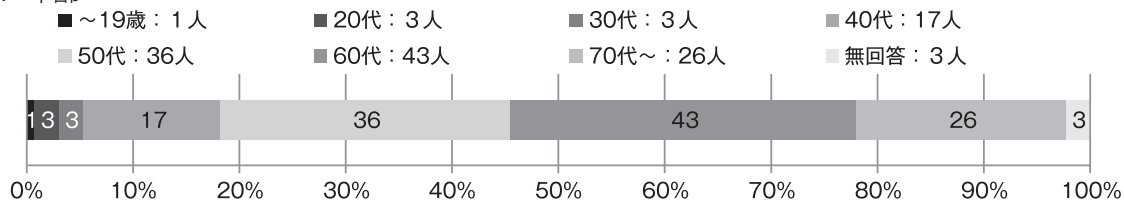


## ■来場者情報

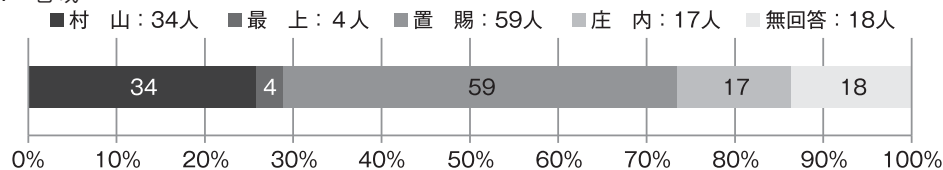
### 1. 性別



### 2. 年齢



### 3. 地域



### 4. 身分等



## ◎概要

- ・来場者約450名のうち、132名から回答を得た。
- ・回答者のうち、性別的には7割近くを男性が占め、年齢的には50代以上が8割を占めた。
- ・回答者のうち、半数近くを地元である置賜地区出身者が占めた。
- ・回答者のうち、7割を各青少年育成市町村民会議の会員など、青少年育成関係者が占めた。

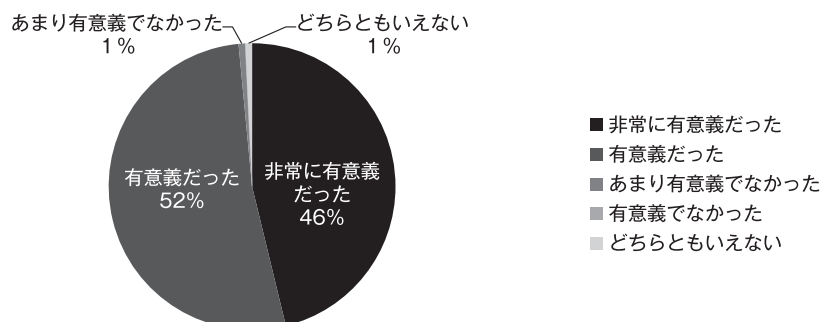
## 「いじめをなくそう高校生サミット」に係るアンケート集計②

### 問1. 高校生サミットの開催について、どう思いますか。

非常に有意義だった	有意義だった	あまり有意義でなかった	有意義でなかった	どちらともいえない	無回答	計
61	69	1	0	1	0	132

#### ◎概要

・サミットの開催について、アンケート回答者のうち、98%の人から「有意義」との回答を得た。

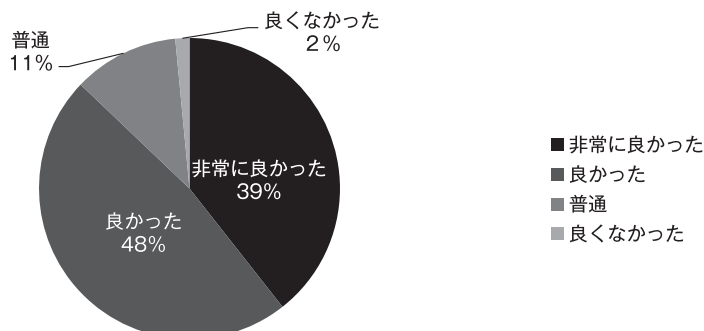


### 問2. 今回の高校生サミットの内容について、どう思いますか。

非常に良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	計
52	63	15	2	0	0	132

#### ◎概要

・サミットの内容について、アンケート回答者のうち、87%の人から「良い」とする回答が得られた。

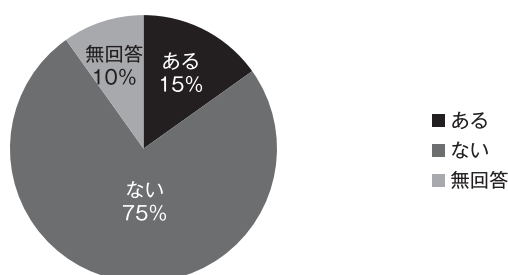


### 問3. これまで類似の事業（いじめをテーマとする児童・生徒同士のサミットやグループワーク等）に参加、あるいは見学したことはありますか。

ある	ない	無回答	計
20	99	13	132

#### ◎概要

- ・アンケート回答者のうち、75%の人から、類似の事業に参加・見学したことはないとの回答が得られた。
- ・アンケート回答者のうち、15%の人から、類似の事業に参加・見学したことがあるとの回答が得られた。



# 「いじめをなくそう高校生サミット」に係るアンケート・自由記載欄取りまとめ 1

## 問1. 高校生サミットの開催について、どう思いますか。

※どのような点で有意義だったのか、あるいは有意義でなかったのかについてお書きください。

### 【記号について】

- …選択式回答で、「非常に有意義だと思う」「有意義だと思う」と回答した方
- △…選択式回答で、「どちらともいえない」と回答した方
- …選択式回答で、「あまり有意義ではなかった」「有意義ではなかった」と回答した方

### 【集計】

○	83
△	1
●	1
計	85

### ◎概要

- ・本自由記載欄について、合計で85名の方々から回答が得られた。
- ・開催の意義について、非常に多くの方から、地域の大人が一堂に会する県民大会の場で、高校生自身による発表を聞き、学校内でのいじめ防止に向けた取組みの様子や大人に対する要望を知ることができた点について有意義であるとする趣旨の回答が寄せられた。
- ・他方で、『「サミット」と言うには、その場の有機的な意見のやりとりが足りないのではないか（意見の発表に終始しがちではないか）」という趣旨の回答も寄せられた。

## <主な回答>

- 自分の立場をふまえて堂々と発表され、意志の強さを感じられた。高校生らしい発表だったと思う。私たち大人も見習う必要があると感じた。
- 生の声で、それぞれの高校の特色ある取組みが聞けて、いじめについて改めて大人として考えさせられた。
- 3校だけでなくもう少し多くの学校の参加があっても良かったのでは。
- 高校生のいじめの対策や取組み、基本的な考えと実践、人間関係の在り方や大切さがわかったこと。
- 高校生の本心の一部を見ることができた。生徒も大人も余裕がないことが気になる。
- 高校生がそれぞれの学校での取組みを行うこと、その発表の場、様々な立場の人が一堂に集まって、教育委員会からの説明等、話が聞けたことが有意義であった。
- テーマを設定してのディスカッションは初めてだった。生徒たちが気持を同じにして、目的を持ち進んで行動していることはすばらしいと思う。
- 高校生、コーディネーターの助言等具体的にいじめ問題が話し合われていた。地域でのサポートの一助になる。
- 現在の高校生の生の声を聞くことが出来、とてもよかったと思う。スローガンを決めるにあたり、全校生徒でいじめについて話し合うことで、いじめについて、一人一人が考えを新たにしたいのではないかなと思う。
- このような機会がなかったので良かったが高校生よりも中学生を対象にした方が現実的な気がする。
- 昨年度“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動が始まったが、この会のサミットで初めて高校生がいじめ防止に真剣に取り組んでいる様子を知ることができ、胸が熱くなった。
- 高校での取組み、感銘を受けた。できればもっと詳しく聞きたかった。(言いにくいことではあると思うが。)
- 高校生と地域がつながる場、特にいじめのような問題について語り合う場というのは中々ない。
- 高校生の生の言葉や、大人の見聞も知ることができた。だが、すべてを解決するのは今のままでは不可能だと思った。
- 互いに認め合う人間関係づくりの課題でスローガンをかけ、高校生としての共通した課題・問題の提起で、今後の取組みの方向が見えると思われる。
- このような形態は初めてで画期的な事だと思う。この問題に対して高校生が真剣に考えている事に安心した。これからも研さんを重ねて欲しいと思う。
- “いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動が小中学生だけでなく、高校生まで拡大していることが実感できた。高校生の声を聞くことができる貴重な機会であった。
- いじめを無くすには、大人の関わり方がいかに大切であるか、改めて思い知らされた。互いの欠点を認めながら、長所を見つけて明るい未来に結び付けていただきたいと思う。
- 高校生が生徒会として自らどのように向き合い、取り組んでいるかその一端を知ることができた。
- 大人を前に意思の疎通が図られた。高校生は我々子育ての証である事の自覚。
- △「サミット」とはどのようなものなのだろうか。意見発表であれば非常に有意義だと感じた。
- 一人一人がしっかりと発見・意思を持っていて発表をしていたが、「サミット」というには協調性がなかったように感じた。

## 「いじめをなくそう高校生サミット」に係るアンケート・自由記載欄取りまとめ 2

### 問2. 今回の高校生サミットの内容について

※どのようなところが良かったのか、良くなかったのかについてお書きください。

#### 【記号について】

- …選択式回答で、「非常に良かった」「良かった」と回答した方
- △…選択式回答で、「普通」と回答した方
- …選択式回答で、「あまり良くなかった」「良くなかった」と回答した方

#### 【集計】

○	66
△	9
●	2
計	77

#### ◎概要

- ・本自由記載欄について、合計で77名の方から回答が得られた。
- ・多くの方から、「高校生の生の声を聞き、生徒自身の考え方や学校における取組みをすることができてよかった」という趣旨の回答が寄せられた。
- ・また、「もっと具体的な事例などに基づいた話や、高校生自身の考えについて深く聞きたい」という意見や、「今後も取組みを継続させ、各地域や小・中・私立を含めた各学校への一層の広がりを期待したい」という趣旨の意見も一定数寄せられた。

### <主な回答>

- 渡部泰山先生の過去のお話やコメントが良かった。
- よくまとめてあり、理解できた。サミットの内容の報告会を各校でやってほしい。
- いじめは人に対する無関心から始められると思う。いじめ防止について、テーマを掲げたサミットはとても有意義だと思う。
- 高校生の正直な思いが集約的に聞くことができたことは大変よかったと思う。大人の率直な思いも同様である。
- 高校生が各校で真剣に、真摯に取り組んでいる様子がわかってよかったと思う。
- 内容を今後どのようなかたちで地域のほうに反映してゆかが課題。
- 各高校の取組みの中で相手への思いやりや関心を持つ気持ちが大切であるとあったが、その通りだと思う。また親や先生も関心を持つことが非常に大事。県内でこのような取組みを行っているとして初めて知ったが、今後も継続してこの問題に取り組んでいただきたいと思う。
- 3校の学校（生徒会）をあげての取組みを参加者が同じ土俵で聞き、考えられたことがよかった。今回の取組みが県内全体へ広がればと期待したい。県民会議初めての取組みでよかったと思う。
- 生々しい「いじめ」についてでなく、「互いに認め合う人間関係づくり」というプラス方向にもっていく内容だったので良かった。
- いじめを対症療法的な対策でなく、人間関係づくりという根本的なところからとらえて考えようとしているところが良かった。大人に期待されていることもはっきりわかった。
- 各校生徒会の取組みも紹介され、高校生自身もいじめをなくそうと努力している姿勢が感じられた。青少年育成関係者も決意を新たにしたいのではないかとと思う。
- 私立校が参加校に入っていないのは残念。
- 各校での取組み内容が具体的にわかりやすかった。「大人へのメッセージ」に対して自分はどうか、「ハッ」と思いながら自問自答した。大変貴重なお時間をいただいた事に感謝する。
- コーディネートの仕方がわかりやすく、生徒も発表しやすかったのではと思った。視聴・参加者もわかりやすかった。
- 大人に対してどのようなことを感じているか、率直な話が聞けて大変良かった。もっともっと子どもの気持ちに寄り添った思いやりを持ちたい。
- 他校の生徒同士も意見交換ができて良かったが、3校県立の高校だけだったので私立の高校も交えてサミットを開催しても良いのではないかと。
- △生徒会の子もたちはいじめる側の子ではないと思う。このような公式の場で、学校でいじめがあるとは言えないが、統計的には必ずあるはずである。実態を大人に子ども達から知ってもらふ発言も欲しい。
- △各校、具体的にどのようないじめがあり、それに関してどのような対応をしたか、地域・学校・家庭の反応はどのようなものであったか、そういった点を知りたかった。
- △もっと高校生の考えを聞きたかった。また、HRで話し合った内容をもっと具体的に聞ければもっとよかったと思う。
- △具体的事例をあげてほしい。なくすためには、起こるプロセスをきっと話し合っているはず…。
- 3校だけでなく、もう少し事例をききたかった。
- 各校の生徒会の取組みの詳細や、一人一人の考えをもっと聞きたかった。生徒の発言が少ない。大人がしゃべりすぎているように感じた。



## 「いじめをなくそう高校生サミット」に係るアンケート・自由記載欄取りまとめ 3

### 問4. その他ご意見や感想などご自由にお書きください。

#### ◎概要

- ・本自由記載欄について、合計で63名の方から回答が得られた。
- ・高校生サミットに参観し「考えさせられた」という声や、全体を通しての所感、サミットを含めた「いじめ防止」に関わる取組みの今後の展開に関する期待や要望、個人としての決意表明など、多岐に渡る意見が数多く寄せられた。

#### <主な回答>

- ・いじめについては義務教育課程の中の小学校時代にすでに起きており、そこからどんどん広がり、深くなってきている。まだ自我の確立できていない早いうちに手を打つことがより効果的と考える。特に小学校中学年あたりが最も効果的と思われる。特に身近にあり、子どもを見ている担任の姿勢、考え方が重要であろう。家庭での教育から始まり、地域の教育力の協力を得ながら、学校がいじめの温床、発生場所とならないよう、学業だけでない人間教育の場として機能させるべきと考える。親、教師、子どもは平等ではない。親は親、師は師としての立場をきちんとさせるべきと思う。
- ・我が家の子どもたちは成人して、近くにいじめの心配等はなくなったのですが、地域の子も達がいじめ・非行がないように見守ってあげたいと思います。
- ・次回があれば、「ここからは大人に介入してほしい」というラインについて、詳しく実例や意見を紹介するような場面ももうけたらどうか。
- ・高校生の考え方、直の声が聞けることは重要である。各世代の交流の場を設けて、関心を持つことが大切。互いを認め合うことは学校の中の生徒間だけでなく、親子、地域、社会全体においても大切なこと。
- ・高校生がどの程度自治につなげられるかにかかっている。結局、教師の指導的側面が強いと、草の根のように広まっていけない。高校同士の連絡協議会のようなものがあって、リーダーが交流によって刺激を得る場が必要と考える。
- ・助言者からもあったように、今回のサミットは画期的なことで、これをきっかけに手を携えて“いじめ根絶”に向けた取り組みをしていかなければならないと改めて強く感じた。単に環境の変化ということで片付けず、現実を直視して良好な人間関係を保ち、問題解決につなげていくことが重要。
- ・「個」の尊重と信頼関係の構築。もっともっと大人が変わらないといけないと強く感じた。大人は大人の役割をきちんと果たす。
- ・高校間のやりとりがあれば、型にはまらない、生の声が出ると思う。
- ・自分の立場で何ができるか今一度考えたいと思った。
- ・マイナス面の対応として、「いじめたくなるのはなぜなのか」という点についても話合ったらどうか。
- ・今後このようなサミットを継続していくなら、中高の生徒指導担当者や、保護者にも、もっと参加を促してほしい。
- ・親に心配かけたくないのに、いじめられていても相談はしないとのことだったが、そんなやさしさ(?)を喜ぶ親はいない。親を信じ、頼ってほしい。親は待っているはず。
- ・子どもの意見だけでなく、地域の大人、先生側の意見を聞くことができ、とても考えさせられた。今日の話聞いて、それぞれもすべてを解決するにはまだまだだと思った。何をすることでいじめがなくなるのか、いじめという言葉がなくなるかをもっと考えていきたい。
- ・大人と子どもが、それぞれの垣根を取り払って話をするような場がもっともっとたくさん必要なのではないか、と考えさせられた。学校だけ…地域だけ…親だけ…あるいは自己責任(!)などの言葉が出ないように、それぞれが協力し合って、今は無理でもそれを逃げ道にしないで、受け止められる環境にしていくことが大切だと感じた。
- ・今日のサミットが各学校に持ち帰って広がりをもたせたい。発表があったが、そのためにどうすればいいのか、議論する場が欲しい。
- ・今回この場で話し合った事は、机上の定義とならず、具体的にどのように広報・周知するかが大事と思う。
- ・親が子どもから目を離さずしっかり見ていれば「いじめ」は見つけられる。我が子も体験したが、小さいうちに、親、子、担任のチームワークで「いじめ」の火種を消しとめた。
- ・いじめ問題に関しては、家庭に子どもがいる／いないに関わらず、皆の関心事として考える必要があると思うので、県民全体に意識を持ってもらえるようなキャンペーン等ももっと必要だと思う。
- ・真剣にいじめについて考える機会をもつことはいいことだと思う。相手を尊重する、良さを認める等、具体的にやっていくことを明確にすることは大切なことだと思う。
- ・生徒会での具体的な行動・活動を聞きたいと思った。また大人にはわからないいじめの心について、小中高あるいは幼少期からどんな原因でいじめたいと思う心が育つか、高校生の方から率直な意見を聞きたいと思う。

平成 27 年 2 月

「平成 26 年度 いじめをなくそう高校生サミット 記録集」

---

編集・発行 山形県青少年育成県民会議

山形県子育て推進部若者支援・男女共同参画課

〒 990 - 8570

山形市松波二丁目 8 - 1

TEL:023(630)2101 / FAX:023(632)8238

